

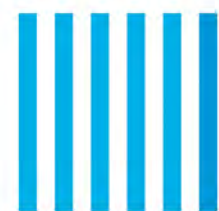
北九州市立大学 地域共生教育センター

# ラボ・レター

<活動報告書 2023>

この活動報告書は、421Lab. (ラボ) から地域の皆様と共に歩んでいきたい  
という思いを込めたお手紙 (レター) のように作成しました。  
これまでの活躍への感謝とこれから始まる新しい関係への、  
私たちからのラブレターのように手に取っていただければ幸いです。

発 行：北九州市立大学 地域共生教育センター (421Lab.)  
発行日：2024年3月  
編 集：北九州市立大学 地域共生教育センター (421Lab.)  
協 力：プロジェクトに参加していただいた多くの皆様  
制 作：平和タイプ・プリント社



**421Lab.**

北九州市立大学 地域共生教育センター  
Regional Symbiosis Education Center

〒802-8577 北九州市小倉南区北方4-2-1 (北方キャンパス2号館1階)  
[TEL]093-964-4092 [FAX]093-964-4088  
[E-mail]info421@kitakyu-u.ac.jp  
[OPEN]10:00~18:00 (月~金)

詳しい情報やアクセスはホームページでチェック

[www.kitakyu-u.ac.jp/421/](http://www.kitakyu-u.ac.jp/421/)

Twitterで活動の最新情報を発信中 [twitter.com/421lab\\_students](https://twitter.com/421lab_students)

北九州市立大学 地域共生教育センター

# ラボ・レター

<活動報告書 2023>

## ラボ・レターによせて

北九州市立大学地域共生教育センター（通称：421Lab.）は、2010年4月21日の設立以来、地域社会における実践活動を通じた若者の人材育成を図ることを目的として、地域活動に取り組む学生たちを支援して参りました。お陰様でこうした取り組みも2024年4月から15年目に突入しようとしています。これまで多くの学生たちが、主体的に学ぶ姿勢やモチベーションを保ち続けて来られたのも、ひとえに地域の皆様方のご支援・ご協力があったからこそだと感じています。あらためまして、これまでのご厚誼に感謝を申し上げます。

2023年度は、数年間に及ぶコロナ禍での地道な活動を土台としながら、学生たちの中で新しい動きが生まれた一年でもありました。例えば、「北九州文化観光」や「北九大認知度向上」など新たなプロジェクトが加わり、意欲的な取り組みを開始してくれました。また既存のプロジェクトでも、他県の中学校によるSDGs修学旅行での大学訪問の受け入れのために力を注いでくれた学生たちもいます。さらに、1月の地域活動発表会では、学生たちの発案により、会場での発表だけでなく、多目的ホールを使ったポスターセッションも実施されました。

地域共生教育センターとしては、9月25日に福岡ひびき信用金庫様とひびしんキャピタル株式会社様との間で包括的連携協定を結ばせていただきました。相互が有する環境やノウハウ等を有効活用し、地域社会における実践活動を通じて次世代を担う人材の育成を目指すとともに、地域貢献活動の一翼を担うことを目的としたものです。その一環として、「子ども食堂応援プロジェクト」の学生たちが、地域情報誌「Catccha（きゃっちゃ）」Vol.01の作成のために、地元商店街の店舗様への取材や企業の代表者様へのインタビュー活動など貴重な経験をさせていただきました。

学生たちがこのような活動をさせていただくことができるのは、普段、学生たちのことを暖かく、そして厳しく受け入れてくださる地域の皆様の包容力があるからこそと考えています。今後も「地域活動を通して将来地域で活躍する若者を育てる」という421Lab.の基本理念を大切にしていきたいと思います。学生の成長のために、引き続き変わらぬご支援、ご指導を頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

2024年3月  
地域共生教育センター長  
西田 心平

# 「体験だけでは終わらない」ための4つのステップ

## INDEX

- 3 421Lab.の「体験だけでは終わらない」ための4つのステップ
- 4 STEP1 事前研修
- 6 STEP2 実践活動
- 8 421Lab. 学生運営スタッフ
- 10 KITAQ∞『絆』復興応援プロジェクト
- 11 防犯・防災プロジェクト (MATE's)
- 12 421Lab. わくわくキッズプロジェクト
- 13 桜丘小学校学習支援プロジェクト
- 14 『食』から学ぼうプロジェクト
- 15 子ども食堂応援プロジェクト
- 16 動物福祉プロジェクト
- 17 「ブンガクの街北九州」発信プロジェクト
- 18 TFT×KitaQ univ. プロジェクト
- 19 国際交流プロジェクト FIVA
- 20 地域クリーンアッププロジェクト
- 21 まち美化魅力向上プロジェクト Clear
- 22 青空学プロジェクト
- 23 平和の駅運動プロジェクト
- 24 英語で遊ぼうプロジェクト
- 25 北九大もったいないプロジェクト
- 26 KITAQ キャンパスSDGs
- 27 生理の貧困プロジェクト
- 28 北九州文化観光プロジェクト
- 29 北九州市立大学認知度向上プロジェクト
- 30 STEP3 2023 地域活動発表会
- 32 STEP4 前期振り返り・後期スタートアップ研修
- 34 2023年度トピックス1 「環境ESD演習I」フィールドスタディ (イギリス・ロンドン)
- 36 2023年度トピックス2 福岡ひびき信用金庫等と包括的連携協定を締結
- 37 2023年度トピックス3 SDGs修学旅行
- 38 Leader's Voice
- 40 REGION×STUDENTS
- 42 421Lab. 概要
- 43 「地域活動のタイプ」について
- 44 短期型の地域活動
- 45 短期型地域活動紹介 私が活躍できる場所、を見つけました
- 46 2023年度地域共生教育センター活動記録
- 47 表彰実績
- 48 地域活動のお申し込みの流れ

※学年や人数等、本誌に掲載されている情報は2024年3月末時点のものです。

## 「何を考えるか」から「何を学びとるか」へ

近年、学習のカタチが変化し、教員が一方向に教える講義スタイルから、社会現場での体験活動に主を置いた実習スタイルが増えてきました。421Lab.でも、商店街の活性化や自然環境の保全、伝統文化の継承などの実社会にある身近な課題をテーマとして、専門分野を超えて課題解決に向けた連携が進んでいます。

しかしながら、一般的な実習スタイルでは「体験すること」が目的となりがちであり、本来のねらいである「教育」からずれてしまうこともあります。

421Lab.では、「事前研修」、「実践活動」、「発表機会」、「振り返り研修」というPDCAサイクルを回すことで、学生自身が何を学びとるかを考え、確実に成長するプログラムを備えています。地域活動に関わった学生が取り組んだ課題に興味を持ち、卒業後の進路につながったり、活動で達成できなかった部分を自分の課題として向き合ったりしていくことにつながります。

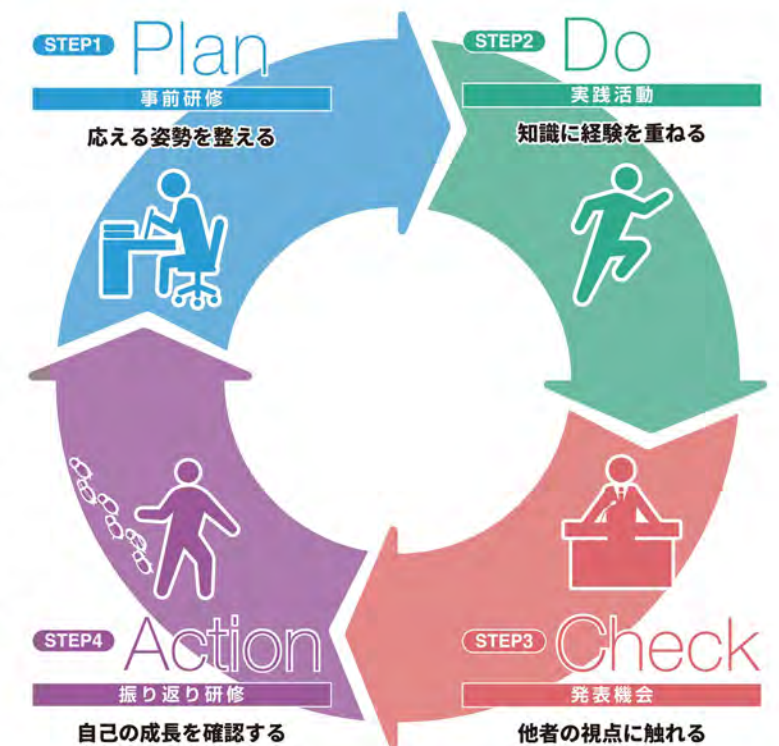
体験するだけで終わるのではなく、学生が「体験を通して学びとる」ことに注力し、学生の成長を応援します。

## PDCAサイクルとは

PDCAとは、Plan（計画）、Do（実行）、Check（分析）、Action（修正）の頭文字をとった造語で、プロセスのサイクルを大まかに説明したものです。

どのような活動でも、ある目的に向かうためのプロセスに当てはめることができ、PDCAサイクルを何度も繰り返すことが活動の改善に直結します。

しかしながら、PDCAを意識せずにいると、Checkまでも到達せずに、与えられた計画に対して実行を続けているのみになります。





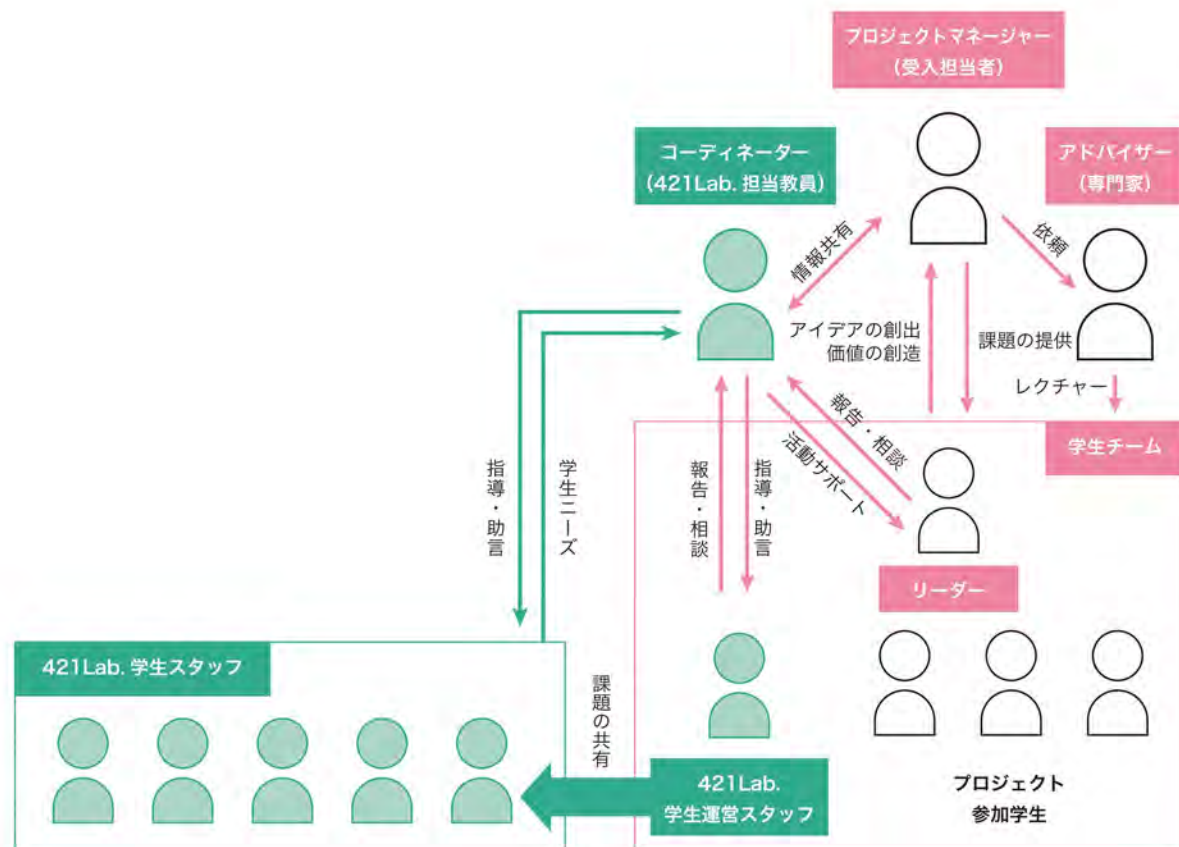


## 実践活動

実際の活動を通じて、下級生は上級生の考えや判断を吸収し、また経験したことを次なる後輩へと引継ぎます。421Lab.の強みは、このように連綿と継承されるPDCAが存在することです。机上の理論だけではなく、現場の空気から状況を読み解いて判断することができ、地域からも信頼される存在となります。教科書では教えられない経験値（経験や勘に基づく知識）をここで獲得します。

### 実践活動の組織体制

プロジェクトごとに関係主体は異なりますが、基本的な組織体系は図の通りになります。受入担当者はプロジェクトマネージャーとして、目的に向かって進むようにプロジェクトの舵取り役を担います。担当教員はコーディネーターとして関わり、受入先との調整や学生のメンタルサポートを行います。必要に応じて専門家が関わり、学生へのレクチャーを行います。各プロジェクトでは学生リーダーを決めて、プロジェクトマネージャーとの連絡を密に取り、チームをまとめていきます。また、421Lab.の学生運営スタッフが参加学生として関わり、チーム作りのサポートや他のプロジェクトとの連携を図っていきます。



## 学びのためのきっかけを創りだす

421Lab.における活動は、すべて学生主体の課外活動です。そのようなプロジェクトに参加している学生は、学部・学群、学年横断型のチーム編成や社会人との協働により、新たな価値観に触れ、異なる意見にも耳を傾け、自らの役割を理解しながら活動を進めています。

また、プロジェクトを進めていく際には様々な困難に直面するため、感情的になってしまったり、モチベーションが低下してしまったりすることもあります。途中で辞めずに1年間活動をすることで、学生自身の成長へと繋がっています。

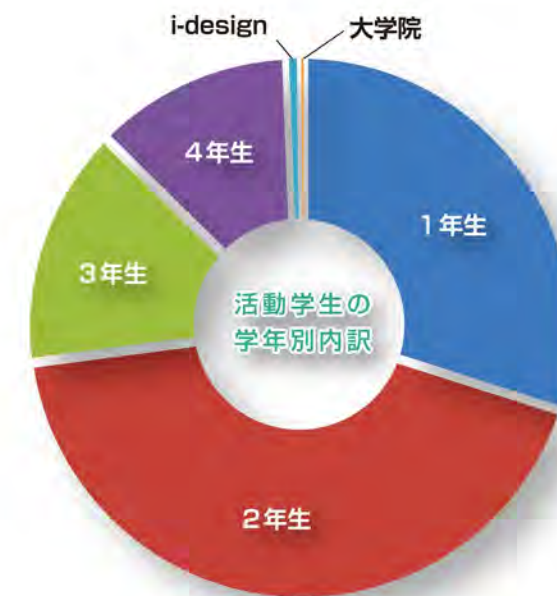
地域と連携しやすい環境や、学生が真摯に活動に向き合える環境を教職員一丸となって提供することで、地域と学生が共に成長できる社会づくりを積極的に進めています。

### ◆ 地域共生教育センター 基礎データ ◆

#### ■ 登録学生数

810名（2024年3月現在）

#### ■ 活動学生の学年別内訳



| 学 年 |     |     |    |          |     | 総計  |
|-----|-----|-----|----|----------|-----|-----|
| 1   | 2   | 3   | 4  | i-Design | 大学院 |     |
| 243 | 348 | 117 | 97 | 4        | 1   | 810 |

#### ■ 活動学生の学部・学群別内訳



| 学部・学群 |     |     |    |      |      | 総計  |
|-------|-----|-----|----|------|------|-----|
| 外国語   | 経済  | 文学  | 法学 | 地域創生 | 国際環境 |     |
| 96    | 359 | 100 | 89 | 156  | 10   | 810 |



## 421Lab. 学生運営スタッフ

### 地域と学生をつなぐ「架け橋」

- **リーダー**  
地域創生学群 地域創生学類  
2年 高群 ゆい子
- **プロジェクト人数**  
31名
- **活動開始時期**  
2010年4月～
- **活動頻度**  
全体会：週1回程度  
(水曜日昼休み～3限)  
各グループ活動：週1回程度
- **連携・受入団体**  
北九州市内の行政機関  
民間組織、団体など
- **主な活動場所**  
地域共生教育センター(421Lab.)
- **こんな人におすすめ!**
  - ・ボランティアに興味がある人
  - ・コミュニケーション能力を身につけたい人
  - ・企画の運営や組織のサポートを行ってみたい人
- **今年度の活動実績**
  - ・プロジェクト向け、運営スタッフ向け研修の実施
  - ・地元小学校との交流企画
  - ・オープンキャンパスの企画
  - ・421Lab.の公式SNSの運用
  - ・地域活動発表会の企画、運営



地域共生教育センター（通称:421Lab.）は、課題を解決したいと考える地域・団体と、地域貢献・ボランティアに興味関心のある学生をつなぐ架け橋のような役割を担っています。その中で421Lab.学生運営スタッフは、北方キャンパスの全ての学部・学群生に地域活動を通して貴重な学びを得てもらうために、「地域活動の魅力発信」と「プロジェクトに関わる人の支援」に取り組んでいます。学生に地域の一員として活動してもらい、地域と学生とを近づけるためのお手伝いを行っています。

#### ◆ プロジェクトで活動する学生の声

学生運営スタッフとして活動していく中で、地域活動とは地域の方の支えがあってこそ成り立つのだと改めて実感しました。多くのプロジェクトが地域の方々と協力して課題解決に取り組んでいます。地域と学生を新たにつなぐお手伝いをさせていただいた時は、大きな達成感があります。

#### 今年度の活動の内容と成果

今年度は、運営スタッフの人数が増え、活動の幅が広がった1年となりました。421Lab.と福岡ひびき信用金庫・ひびしんキャピタル株式会社との包括的連携協定の調印式（P36に関連記事あり）で、プレゼンテーションや司会を務めました。また、東武トップツアーズ株式会社と連携し、関西からの修学旅行生の受入れを行い、大学や421Lab.について説明を行いました。受入れ当日は、運営スタッフ以外のメンバーの協力も得ながら、スタッフ一丸となって取り組みました。1月に行われた地域活動発表会（P30・31に関連記事あり）では、昨年までの形式から変え、ポスターセッションでの発表とスライドを使った発表の2部門を設け、より活動について知っていただけるよう工夫しました。昨年度からの変更点があり、苦労したことも多かったですが、同時に学ぶことも多い発表会となりました。今年度はこれまでになかった企画や活動が多く、メンバー相互に高め合いながら、新しいことに挑戦できた1年となりました。

#### 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今年度は、運営スタッフの人数が増え、また新しいプロジェクトもスタートしました。421Lab.全体としても多様な活動が行われているため、今後、運営スタッフのプロジェクトに対する支援の仕方や関わり方を変化させていくべきなのではないかと考えています。これまでより、学生が地域活動を行いやすい・もっと行いたいと感じてもらえるような環境づくりや支援を行い、学生運営スタッフ全体で421Lab.を盛り上げていきたいです。



## 大学・地域支援グループ

- **リーダー**  
地域創生学群 地域創生学類  
2年 長濱 麟太郎
- **グループ人数**  
10名
- **今年度の活動実績**
  - ・小学生を対象とした大学訪問（年2回、3校）
  - ・オープンキャンパスでの座談会

大学・地域支援グループは、421Lab.について学内外の人たちに知ってもらうための企画立案やイベント開催等を行っています。学内外、小学生から高校生までの幅広い世代と交流する機会があるため、場面に応じたコミュニケーション方法やイベントを通じて企画運営能力などを身につけることができます。また、学内イベントでは421Lab.の活動紹介を行っています。

#### ● 小学生を対象とした大学訪問の感想

地元小学生の大学訪問の受入れは、大学生という身近なロールモデルに接することで、参加した小学生が将来を具体的にイメージできる機会となるよう、様々な趣向を凝らして実施しました。小学校の先生方と何度もミーティングを重ね、依頼主旨を企画の至る所に組み込んでいます。今年度は、「小学生に大学生の日常を体験してほしい」という要望を基に、履修登録を小学生でも楽しみながら行ってもらった履修

登録ゲームを行いました。キャンパスツアーでは、「小学生に自発的に活動してもらいたい」という思いから、用意した学内の地図を基に小学生自らが探し、見つけてもらうよう体験型に行いました。参加した小学生から「楽しかった」との声をいただき、私たちも楽しみながら学ぶことができた大学訪問になりました。この企画を通してタイムマネジメントや情報共有の大切さを学ぶことができました。



## Lab. 支援グループ

- **リーダー**  
経済学部 経営情報学科  
2年 北長 武流
- **グループ人数**  
7名
- **今年度の活動実績**
  - ・421Lab.公式ホームページ内の「ラボログ」の更新
  - ・SNSを活用した広報
  - ・北九州市民活動サポートセンター発行「広報誌キラキラ」への寄稿
  - ・マナー講座の開催

Lab.支援グループは、421Lab.全体の運営サポートを行っているグループです。主に広報誌やSNS等で、421Lab.に所属しているプロジェクトの活動の宣伝を行っています。421Lab.公式ホームページ内の「ラボログ」に各プロジェクトの活動を詳細に記事にしています。他にも、学生運営スタッフに向けた講座を実施しています。今年度は、企業や団体等学外の方との交流の際に必要な社会人マナーについての講座を開催しました。

#### ● マナー講座の感想

今年度は、学生運営スタッフに向けたマナー講座を実施しました。この講座は、身だしなみ、言葉遣い・メール、名刺交換の3部に分けて行いました。企画を進めるにあたって、企画の考案から実行までを1年生が主体となって進めました。はじめの「身だしなみ」の講座では、準備の段階で対面でのミーティングが少なく直前になって慌ててしまったという反省がありました。その後の講座では、初回の反省を

活かしてミーティングを対面で行い、万全を期して当日を迎えられました。発表途中でゲーム性を持たせたワークを行う工夫を行えた、スムーズな進行ができたなどのたくさんの良い点もあげられました。この企画で、Lab.支援グループでのこれからの活動における大事な土台づくりができたと思います。来年度は様々な分野の講座を行いたいです。



## プロジェクト支援グループ

- **リーダー**  
経済学部 経営情報学科  
2年 西原 颯汰
- **グループ人数**  
13名
- **今年度の活動実績**
  - ・ブース説明会の企画・運営
  - ・定例研修会の企画・運営
  - ・パソコン講座の企画・運営（3回）
  - ・マナー講座の企画・運営（1回）

プロジェクト支援グループでは、421Lab.のプロジェクトに在籍する学生が活動しやすくなるように研修会や講座を開いてサポートしています。研修会はそれぞれのプロジェクトが1年間の活動に目的や課題意識を持ちながら活動していけるようにするために開催しています。講座では、地域活動を行う上で最低限必要な礼儀作法やパソコンの基本的な使い方といったスキルアップに直結する企画も実施しました。

#### ● 各研修の感想

今年度は各プロジェクトに対して「目的意識」を持つことの重要性が伝わる研修会となるよう努めました。5月に開催した、前期スタートアップ研修では今年度の活動の目的を考え、それを達成するため目標の設定を行いました。前期振り返り・後期スタートアップ研修においては前期に設定した目的に対して確かな方向性で進んでいるかの確認と後期の活動方針を決めることを行いました。前期スタートアップ

研修では、1年生が司会進行を務めました。事後アンケートからもたくさんのお褒めの言葉をいただき、大変励みになりました。一方、前期振り返り・後期スタートアップ研修では、当日の時間配分や、リハーサル不足など準備の面での課題点が残りました。今年度を総じて良い点・悪い点ありましたが、引き続き来年度以降もプロジェクトメンバーを最大限サポートする活動を行っていこうと思います。



## STEP2 PROJECT 2

# KITAQ∞『絆』復興応援プロジェクト 北九州から食を通じて被災地と つながる！



- **リーダー**  
文学部 人間関係学科  
2年 山下 雅尋
- **プロジェクト人数**  
15名
- **活動開始時期**  
2011年4月～
- **活動頻度**  
毎週金曜日に昼休みのミーティング  
市内のイベント等で月に2～3回の出店  
地域や小学校での防災教室
- **連携・受入団体**  
お好み焼きいしん
- **主な活動場所**  
学内  
お好み焼きいしん  
各地のイベント
- **こんな人におすすめ！**
  - ・復興支援に興味がある人！
  - ・食に興味がある人！
  - ・地域と繋がりを求める人！
- **今年度の活動実績**
  - ・焼うどん講習会 ・まつりみなみ
  - ・北九州空港まつり ・青嵐祭の出店
  - ・八幡大谷市民センター
  - ・藤木小学校での防災教室
  - ・SDGs修学旅行の受け入れ
  - ・釜石市と北九州市の関係性を学ぶ勉強会



東日本大震災をはじめとした被災地の復興支援と風化防止を目的として活動を行っています。地域の祭りやイベントに参加して、岩手県釜石市産のイカと小倉発祥の焼うどんを掛け合わせた「絆焼うどん」を販売し、その一部を義援金として寄付や旅費等の活動資金に充当しています。さらに、震災を風化させず防災意識の向上のために、防災教室も開催しています。食を通じて人と地域、被災地とを繋げる活動を行っています。

### ◆ プロジェクトで活動する学生の声

北九州市は比較的自然災害の少ない地域ですが、だからといって災害が起きないとは言いきれません。自分の身の安全を守るには、備えることが大切です。そのため、「絆焼うどん」の出店・販売や、防災教室を開催することで地域の方々に震災が身近なものであると認識してもらえよう、活動に励んでいます。

### 今年度の活動の内容と成果

コロナ禍で数年間中止していたお祭りが再開し、3回もの「絆焼うどん」の出店活動ができました。昨年は活動の多くを受け入れ先である飲食店に頼っていましたが、今年度は新メンバーがたくさん入ったこともあり、プロジェクトメンバーだけでお店を回せるようになりました。「絆焼うどん」は多くの方にお求め頂き、3回の出店全てで完売しました。また、出店することに反省会を実施し、今回の良かった点と次回の出店に活かす点を皆で共有しました。また、地域の方々に震災の風化防止が伝わるよう努めました。小・中学生を対象にした防災教室も行い、災害の少ない北九州でも防災を意識しておく事の重要性を伝えてきました。子どもたちと一緒に防災について考える中で自らの防災に対する意識も高まり、大学生として周りの命も助けるにはどうしたらいいか考えるようになりました。私たちの活動を通じて、災害は身近なものだという事を認知してもらいたいと思っています。

### 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

「絆焼うどん」の出店に引き続き力を入れていきます。そして、その売り上げを活用し、岩手県釜石市への視察訪問をしたいです。被災地から遠く離れた北九州の方々に風化防止を訴えるには、まずメンバー自身が自らの目で被災地の現状を確かめ、活動に活かしていく事が一番の近道だと考えています。また、そこで得た知識を伝えていく事も私たちの使命だと考えます。防災教室などで現地のありのままの姿を伝え、震災の風化防止と防災意識の向上に努めていきたいです。



## STEP2 PROJECT 3

# 防犯・防災プロジェクト (MATE's) 防犯・防災意識向上の“きっかけ” づくり



- **リーダー**  
文学部 比較文化学科  
3年 福島 菜緒
- **プロジェクト人数**  
27名
- **活動開始時期**  
2010年5月～
- **活動頻度**  
【ミーティング】毎週木曜日昼休み  
【外部活動】月4回程度
- **連携・受入団体**  
自衛隊福岡地方協力本部北九州出張所、  
福岡県人づくり・県民生活部生活安全課、  
福岡県警察本部生活安全部生活安全総務課、  
福岡県小倉南警察署生活安全課・少年課・交通課、  
北九州市市民文化スポーツ局安全・安心推進課、  
北九州市小倉北区役所総務企画課、  
NPO法人好きっちゃ北九州、  
NPO法人盗撮防止ボランティアWc、  
一般社団法人九州防災パートナーズ、  
株式会社J.COM、ソフトバンク株式会社
- **主な活動場所**  
学内、北九州市の小学校・市民センター、  
ショッピングモールなど
- **こんな人におすすめ！**
  - ・防犯・防災に興味関心がある人
  - ・子どもと関わるのが好きな人
  - ・コミュニケーション能力を高めたい人
- **今年度の活動実績**
  - 【防犯活動】
    - ・二重電話詐欺・選付金詐欺・自転車盗・性犯罪の注意喚起キャンペーン活動
    - ・自転車盗難防止ポスター作成
    - ・地域安全マップづくり
    - ・ながら防犯会議への参加
    - ・学生防犯ボランティア会議への参加
    - ・盗撮防止パトロール
  - 【防災活動】
    - ・あそぼうさいへの参加(市内各地)
    - ・小倉北区総合防災訓練への参加
    - ・模代Bousaiチャレンジ
    - ・「防災の日」100年プロジェクト「防災Lab.夏祭り～みんなであそぼうさい～」
  - 【その他の活動】
    - ・市役所、南警察署、MATE'sの三者間での連携構築
    - ・自衛隊との連携



「北九州市を学生の視点から安全・安心なまちにしたい」。そんな思いから、私たちは防犯・防災という2つの分野で様々な活動に取り組んでいます。メンバー一人ひとりが、他人事ではなく自分事として「まちの安全安心」について深く考え、話し合いながら、有事の際にベストな行動がとれるように、防犯・防災の視点から地域に入り、活動を通してコミュニティの活性化を図っています。

### ◆ プロジェクトで活動する学生の声

防犯防災の知識や学生同士・地域間の関わり大切さを学べます！地域の小学校や市民センターで「あそぼうさい」や防災マップの活動に参加することで、関わることの出来ない地域の人々と交流できます。新しい学びや交流があるため、やり甲斐があり非常に充実したプロジェクトだと実感しています。

### 今年度の活動の内容と成果

今年度は、新たな取り組みや連携を実現することができました。まず防犯分野は、警察署との連携活動が挙げられます。昨年度に引き続き、二重電話詐欺・選付金詐欺・自転車盗難・性犯罪の注意喚起キャンペーン活動や地域安全マップ作成、盗撮防止パトロールに取り組みしました。新たに自転車盗難防止ポスターを作成し、学内に掲示しました。また、ながら防犯会議、学生防犯ボランティア会議への参加によって防犯への知識向上に努めました。次に防災分野は、遊びながら災害について学んでもらう「あそぼうさい」に参加しました。また、小倉北区総合防災訓練や模代Bousaiチャレンジ、「防災の日」100年プロジェクト「防災Lab.夏祭り～みんなであそぼうさい～」など他大学や様々な団体と一緒に大きな企画に参加しました。特にあそぼうさいについてはNPO法人好きっちゃ北九州！と連携し、防災意識を持ってもらうための企画をしました。昨年度より、北九州市役所・小倉南警察署・MATE'sの三者間での連携関係を構築したことに加え、新たに自衛隊との連携を実現しました。

### 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

次年度の目標はこれまでの活動に+αを加えることです。防犯活動は大人向け、防災活動は子ども向けと対策が偏った点が課題であると認識しています。そのためそれぞれの分野で、幅広い年代を対象とした活動をしていきたいです。また、防犯防災をより身近に感じてもらえるような活動を展開したいです。そして、MATE'sについてより多くの人に知っていただけるように、このような活動を通して、今後はより防犯・防災意識向上のきっかけづくりに携わることができるようにしていきたいと思っています。



## STEP2 PROJECT 4

# 421Lab. わくわくキッズプロジェクト 「学べる遊び」を通じて笑顔と 思い出をつくる!



- リーダー  
文学部 比較文化学科  
2年 奥 日向
- プロジェクト人数  
13名
- 活動開始時期  
2021年4月～
- 活動頻度  
毎週月曜昼休みに定例ミーティング  
月に1、2回不定期でイベントに参加
- 連携・受入団体  
大英産業株式会社  
コラボキャンパスネットワーク等
- 主な活動場所  
学内  
幼稚園や小学校  
商業施設
- こんな人におすすめ!  
・子どもと関わるのが好きな人  
・企画力を養いたい人  
・学部・学科を越えた交友関係を  
築きたい人
- 今年度の活動実績  
・大英産業株式会社と連携して月に  
1、2回程度北九州市内の各地で行  
われる子ども大工に参加。  
・8月には子ども食堂応援プロジェク  
トとのコラボで城野市民センターで  
の子ども食堂に参加し、自由研究企  
画を行った。  
・コラボキャンパスネットワーク主  
催のミニプレーパークに参加し、夏  
祭りやハロウィンイベントを開催。



私たちの活動目的は、子どもたちが楽しく学びながら遊ぶことができる企画をメンバー全  
員で考え、思い出に残る特別な時間を提供することです。未就学児から小学校高学年の子ど  
もたちまで、それぞれの年齢に合わせた遊びを考えます。市内の企業や団体と連携しなが  
ら、出張子ども大工への定期的な参加に加え、夏祭りやハロウィンパーティーといった季節  
のイベントを開催しています。

### ◆ プロジェクトで活動する学生の声

イベントに向け、大学生と子どもたちが一緒になってできる工作や遊  
びを企画します。その際、安全性や難易度を考えながら、子どもたちに  
楽しんでもらえる企画になるように心がけています。企業の方々の関  
わりがでたり、可愛い子どもたちに癒されたりと、様々な経験ができ  
ます。

### 今年度の活動の内容と成果

- 【出張子ども大工】大英産業株式会社が企画している「子ども大工」に毎  
月参加しています。  
子ども大工では、建築端材を活用した椅子・写真立てを製作していま  
す。子どもたちと一緒に楽しみながら、環境問題について理解を深める  
機会を提供しています。
- 【自由研究企画】子ども食堂応援プロジェクトとコラボ企画を開催しまし  
た。子ども食堂に参加する小学生を対象に、水と油の性質を利用したオ  
ブジェの制作、万華鏡作りを行いました。オブジェを作る際は、「なぜ  
水と油は分離して、洗剤と油は混ざるのか」実験を行い、夏休みの自由  
研究に活用できるように企画しました。
- 【夏祭りイベント】コラボキャンパスネットワーク、英語で遊ぼうプロ  
ジェクトとのコラボ企画で、夏祭りイベントを開催しました。当日は  
UFOキャッチャーやもぐらたたきなど、複数のブースを出展しました。  
金魚すくいのブースでは、スポンジで魚をかたどり、ポイは水切りネット  
を使うなど、小さな子でも遊びやすい工夫しました。

### 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今年度はメンバーの積極的な取り組みのおかげで、昨年  
度より多くのイベントを企画・開催することができまし  
た。今後は各イベントの質をさらに上げていくため、遊び  
のバリエーションを広げ、子どもの年齢により適した企画  
を考えます。また、  
私たちがイベントを  
通じて子どもとの接  
し方を「学び」なが  
ら、子どもたちの思  
い出に残る特別な時  
間を提供していきま  
す。



## STEP2 PROJECT 5



# 桜丘小学校学習支援プロジェクト 実際の教育現場で子どもたちの 学習をサポート!!

- リーダー  
経済学部 経済学科  
2年 野口 七菜恵
- プロジェクト人数  
14名
- 活動開始時期  
2017年4月～
- 活動頻度  
個々の学生の授業スケジュールに合わ  
せて活動日の調整を行い、それぞれの  
都合の良い曜日・時間帯に活動しま  
す。(週1回程度)
- 連携・受入団体  
北九州市立桜丘小学校
- 主な活動場所  
北九州市立桜丘小学校
- こんな人におすすめ!  
・子どもと関わるのが好きな人  
・やりがいのある活動がしたい人  
・教員免許の取得を目指している人  
や将来教員になりたい人
- 今年度の活動実績  
・授業への参加を通じた学習支援活動  
・小学生を対象にした「キャリア教  
育」授業の実施



小倉北区にある桜丘小学校にて、児童の学習支援を行っています。主な活動は、各教室で  
行われている実際の授業に参加し、AT（アシスタント・ティーチャー）として、子どもの学  
習理解をサポートする役割を担っています。また、その他の活動として、特別支援学級での  
学習支援活動や、小学5年生を対象にした進路(高校・大学)に関する特別授業「キャリア教  
育」を開講しています。

### ◆ プロジェクトで活動する学生の声

普段の活動では、授業が円滑に行われるように子どもたちを様々な面  
でサポートしています。今年度は「キャリア教育」という進路に関する  
授業の内容も作成しました。このような活動の中で子どもたちから笑顔  
で「ありがとう」と言ってもらえることが、活動の原動力にもなってい  
ます。

### 今年度の活動の内容と成果

- 新型コロナウイルスによる行動規制の緩和により1年を通して小学校を  
訪問し、子どもたちの学習支援をすることができました。主にATとして各  
教室での授業に参加し、子どもたちの学習支援に尽力しました。その他、  
運動発表会や卒業式等の学校行事にも参加し、様々な形で子どもたちと  
交流することができました。
- 今年度は、例年12月頃行っている「キャリア教育」を2月に行うことにな  
りました。地域活動発表会の準備やテスト期間の影響によりミーティ  
ングをする機会が少なかったため、各自でキャリア教育の計画案を出し合っ  
て取り組みました。現在は教職過程と並行して活動を頑張っている学生も  
多数在籍し、忙しい学生が多いですが、時間を見つけてそれぞれ活動  
を行っています。

### 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今後はより自主性及び主体性を持って、プロジェクト活  
動に取り組みたいと考えています。授業にATとして参加す  
ることは継続しつつ、キャリア教育の授業における計画立  
案の経験を活かし、子どもたちの勉強に対する苦手意識を  
払拭する放課後教室や留学生との交流などに挑戦したいと  
思っています。昨年よりもメンバーが増えたので、新しい  
ことにもチャレンジしていきたいと考えています。



## STEP2 PROJECT 6

# 『食』から学ぼうプロジェクト 食と健康の大切さを楽しく発信



- **リーダー**  
経済学部 経済学科  
2年 大島 静乃
- **プロジェクト人数**  
15名
- **活動開始時期**  
2016年4月～
- **活動頻度**  
毎週1回昼休みにミーティングを行います。(今年度は毎週木曜日)  
月1回程度で企画やイベントを行います。(調理実習、高血圧予防啓発イベントへの参加など)
- **連携・受入団体**  
北九州市小倉南区役所保健福祉課  
JA北九の女性部の方々
- **主な活動場所**  
学内  
北九州市立北方市民センター 調理室  
北九州市立志井小学校  
JA北九 大地の恵み西中店 調理室
- **こんな人におすすめ!**  
・料理が好きな人  
・食べることが好きな人  
・コミュニケーション力を高めたい人
- **今年度の活動実績**  
・調理実習  
・高血圧予防啓発イベントへの参加  
・北九州市立志井小学校にて、減塩についてのゲストティーチャー  
・JAの婦人部の方々と調理実習  
・SNSでの啓発活動



私たちは、地域社会との繋がりを大切に、食と健康について自発的に学習し、その成果を地域住民の方々や同世代の学生に伝えています。前年度に引き続き「小倉南区公認KG-100アンバサダー」として活動をし、小倉南区が実施している高血圧予防啓発イベントへの参加、小学生に向けた高血圧予防の啓発活動を行っています。また今年度からは、JA北九の婦人部の方々と交流させて頂き、地元の食文化について学んでいます。

### ◆ プロジェクトで活動する学生の声

調理実習等を通してメンバー間の交流があり、イベントの際も協力して楽しく準備することができています。企画は少し大変だと感じる時もありますが、色々な立場や幅広い世代の人と関わることができるので充実感と達成感も大きいです。

### 今年度の活動の内容と成果

#### 【調理実習】

今年度は韓国料理を作り、韓国の食文化を学びながら、メンバー間の交流を深める機会になりました。

#### 【高血圧予防の啓発イベントへの参加】

競馬場で毎年行われている南区、子ども祭りに参加し、減塩の大切さについて、子どもたちにはもちろん、保護者たちと一緒に学んでもらえました。

#### 【志井小学校にて減塩のゲストティーチャー】

小学5年生の家庭科の授業で減塩並び替えゲームを楽しみながら、減塩について学んでもらえました。

### 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今年度はコロナの影響が減り、例年の活動に加えて新たな活動を始めることができました。新しい方々との出会いもあり、来年度もさらに活動の幅を広げていけそうです。今年度は私たちの学びを地域に発信することができた1年でした。来年度は、学内での発信を増やしていきたいです。また、地域住民の方との関わりをさらに深めて実りのある活動を行っていきたくと考えています。



## STEP2 PROJECT 7

# 子ども食堂応援プロジェクト 子どもたちが安心できる 居場所づくりを



- **リーダー**  
経済学部 経済学科 2年 青井 陽彦  
経済学部 経済学科 2年 宮成 結希  
法学部 法律学科 2年 田中 祥乃
- **プロジェクト人数**  
77名
- **活動開始時期**  
2016年9月～
- **活動頻度**  
(日明) 毎月第2、4週 (水) 17:00～  
(城野) 毎月第3週 (水) 17:00～  
(大里南) 毎月第1、3週 (水) 17:00～  
(若園) 毎月第2週 (金) 16:00～
- **連携・受入団体**  
日明元気もりもりハウス  
城野子ども食堂ハッピー  
絆キッチン  
こあらのおうち子ども食堂
- **主な活動場所**  
北九州市立各市民センター  
(日明・城野・大里南・若園)
- **こんな人におすすめ!**  
・子どもが好きで、楽しく活動したい人!  
・継続して活動に参加できる人!  
・自分で企画を立てて、子ども食堂を運営したい人!
- **今年度の活動実績**  
・子ども食堂での定例活動  
・年中行事に合わせた子ども食堂でのイベント(ハロウィンやクリスマス等)  
・外部講師を招いた子ども食堂でのイベント  
・SNSによる広報  
・福岡ひびき信用金庫との地域情報誌作成(取材および原稿作成)



子ども食堂応援プロジェクトは、北九州市内の子ども食堂で、子どもたちに勉強を教えたり、一緒に遊んだりしています。みんなでご飯を食べることで孤食を防ぐとともに、子どもたちに楽しく、安心して過ごすことのできる第3の居場所づくりを目標としています。現在は4つの子ども食堂と連携して活動を行っています。イベントの企画を通して、子どもと関わりながら成長することができるプロジェクトです!

### ◆ プロジェクトで活動する学生の声

子どもたちが挑戦や経験を通じ成長する姿を間近で見ることができ、いつも楽しみながら参加しています。特に子どもたちが苦手な食べ物に挑戦して食べられるようになり、自信満々に食べている姿を見ると嬉しく思います。また、今年度の子ども食堂では、様々なイベントを企画することができました。企画の検討や準備に多くの時間を要しましたが、子どもたちが楽しんでいる様子を見ると達成感を感じます。

### 今年度の活動の内容と成果

今年度は他のプロジェクトとのコラボ企画の実施や、地域の団体や企業の方から支援を受け、子どもが魅力的に感じる企画作りを意識しました。

6月に北九大もったいないプロジェクトとコラボ企画を実施し、ゴミ分別ゲーム、リサイクル神経衰弱、環境マルバツゲームなどゲームを行い、子どもたちに環境問題について興味をもって学んでもらうことができました。8月には、421Lab.わくわくキッズプロジェクトとコラボ企画を実施し、水と油のオブジェづくりと万華鏡づくりを行いました。子どもたちは、水と油が混ざらない仕組みを遊びの中で学び、普段体験できない経験を行うことができてとても楽しそうにしていました。

また、毎回の活動の様子をSNSに投稿することで多くの人に認知してもらうことを目的に、プロジェクト活動を外部に発信しました。たくさんの方の協力のもと子どもたちの安心できる居場所づくりに貢献できたのではないかと思います。

### 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今年度は、様々な活動を通して、子どもたちが熱中して取り組めるような遊びの考案に力を入れました。来年度は、自分たちが部活や授業で培った経験を子ども食堂の場面に活かして子どもたちが楽しめるような企画作りをしていきたいです。また、所属学生が多いことを活かして4つの子ども食堂だけではなく他の子ども食堂にも活動の幅を広げてより多くの子ども食堂と関わっていききたいです。



## STEP2 PROJECT 8

# 動物福祉プロジェクト 「動物福祉」という言葉を まずは北九州から広めていく



- **リーダー**  
経済学部 経営情報学科  
2年 中谷 学斗
- **プロジェクト人数**  
20名
- **活動開始時期**  
2015年11月～
- **活動頻度**  
全体会（不定期）  
班別ミーティング  
（火、木、金の昼休みもしくは3限）  
北九州市動物愛護センターへの訪問  
（月1）
- **連携・受入団体**  
北九州市動物愛護センター  
NPO法人ドッグセラピージャパン  
NPO法人アニマルホームOhana
- **主な活動場所**  
北九州市動物愛護センター
- **こんな人におすすめ！**  
・動物が好き  
・動物福祉について興味のある人  
・動物との暮らし方を知りたい人
- **今年度の活動実績**  
・北九州市動物愛護センターへの訪問  
・「たまねこ、たまびと」の上映会に  
参加  
・「Ohanaから始まる命を紡ぐ物語」  
のイベント参加  
・TNR活動に寄付を行う  
・カタノダプラスでドッグランの整備  
のお手伝い  
・SNSで動物の飼いや、動物虐待  
に関しての発信  
・動物福祉に関して路上アンケートを  
実施  
・ペット用おもちゃの作成  
・動物福祉に関するチラシの作成



北九州市に動物福祉という言葉を広げていこうと考え活動しています。多頭飼育崩壊などによりペットが簡単に命を落としてしまう現状や、災害時の避難先でペットの扱い方が決まっていな避難所などがあります。またコロナウイルスの規制緩和によりおうち時間が少なくなり、ペットをないがしろにしている飼い主が増えています。こうした現状を良くするために、私たちは動物福祉という言葉を広げ、ペットのことを少しでも考えてもらえるように日々活動しています。

### ◆ プロジェクトで活動する学生の声

私は動物が好きでこのプロジェクトに入ったのですが、ペットが抱えている問題についてほとんど知りませんでした。その中で動物福祉プロジェクトに入り様々なことを学んでいくことで、ペットの命について改めて深く考える良い機会となりました。

### 今年度の活動の内容と成果

今年度はプロジェクト名を動物福祉プロジェクトと新しくしたため、既存の活動に加え、新しく様々な活動にも挑戦する年となりました。

定例の活動である北九州市動物愛護センターへの訪問は月に1回行い、SNSの投稿は毎週行うことができました。また新たな試みとして募金活動や、路上アンケートなど様々なことに挑戦する1年となりました。

今年度、特に力を入れて行った新しい活動はNPO法人アニマルホームOhanaさん主催「Ohanaから始まる命を紡ぐ物語」のイベント参加です。こちらは私たちの活動で初めて自身のブースをいただきイベントに向け準備を行いました。この活動を通じて改めて動物福祉という言葉の認知度を再認識するとともに、私たちの活動意義を実感する良い機会となりました。

今年度の活動はこのプロジェクトの活動の幅を広げることができたと考えております。様々な体験をさせていただき、様々なことを学ぶことができた有意義な1年となりました。

### 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

昨年度の課題だった班によって活動頻度に大きく差があるという点を改善し、全ての班に平等に活動を行える場を整えることができました。今年度は様々な活動に挑戦することで、活動のマンネリ化も防ぐことができました。

来年度は今年度行った活動をブラッシュアップし、より充実した活動が行えるようにしたいと考えています。そのために、メンバー全員がより意見を出しやすい場所づくりを目標に頑張りたいと思います。



## STEP2 PROJECT 9



# 「ブンガクの街北九州」発信プロジェクト 日常に文学を！

- **リーダー**  
文学部 人間関係学科  
2年 今村 杏莉
- **プロジェクト人数**  
12名
- **活動開始時期**  
2015年11月～
- **活動頻度**  
週に1時間程度のミーティング、月に1回程度、週末にイベント等に参加
- **連携・受入団体**  
北九州文学サロン  
北九州市立子ども図書館  
北九州市役所
- **主な活動場所**  
学内  
北九州文学サロン  
北九州市立子ども図書館  
小倉町銀天街
- **こんな人におすすめ！**  
・北九州市の地域の人との交流や、地域に根差した活動に興味がある人  
・イベントの企画、運営をやりたい人  
・文学作品や読書、北九州市にゆかりのある文学作品や文豪に興味がある人
- **今年度の活動実績**  
・北九州市文学サロンにて「青空作文教室」開催  
・「とほほん市」への参加  
・学内古本市開催  
・北九州文学サロンで小学生対象の読書感想文講座開催  
・北九州市立子ども図書館「子ども読書の日」にて平和の駅運動プロジェクトと合同でイベント開催  
・おすすめの本紹介



私たち「ブンガクの街北九州」発信プロジェクトは、「北九州市を『文学』の街としてブランディングする」というコンセプトのもと、北九州市を盛り上げるために活動しています。実は、北九州市にゆかりのある文豪や文学作品はたくさんあります。それらの魅力を多くの人に広めたり、地域の人と『文学』を通して交流したりするために北九州市文学サロンの皆様や北九州市立子ども図書館のご協力のもと、日々活動しています。

### ◆ プロジェクトで活動する学生の声

今年は昨年より、自分たちで企画したイベントを開催することができました。特に小学生を対象とした「青空作文教室」は、文学とアウトドアを組み合わせるという斬新な企画にすることができ、参加した児童からは楽しかったという感想を多くいただき、やりがいを感じました。

### 今年度の活動の内容と成果

今年度は昨年度開催し、好評だった企画をもう一度行うことができ、さらに新しい企画もできた充実した1年でした。特に、2023年8月に文学サロンで開催した「読書感想文講座」は、昨年より開催日程を増やしましたが、すべて満員でキャンセル待ちになるほど多くの方に参加していただきました。また、10月に北九州市立子ども図書館で行った平和の駅運動プロジェクトとの合同企画も昨年度から引き続き2回を開催することができました。昨年達成できなかったことや反省点を活かし、内容を変えたところ、多くの児童の皆さんに参加していただきました。この子ども図書館の企画を私たちの活動の基盤にしたいです。対面での企画はもちろんですが、SNSの運用も積極的に行いました。特にInstagramは昨年度よりフォロワーが70人近く増えました。おすすめの本紹介を通して大学生ならではの視点で文学について発信し、幅広い世代の方と交流することができました。

### 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今年度は、プロジェクトの活動の基盤ができ、新しい挑戦もできた1年になりました。特に小学生を対象とした企画が多かったので、来年度は社会人の世代や高校生など今まで対象としてこなかった世代の方に「文学」の魅力を発信したいです。また、活動場所が昨年度とあまり変わらなかったため、今後は今までイベントを開催しなかったことがない場所で挑戦してみたいです。



## STEP2 PROJECT 10

## TFT×KitaQ univ. プロジェクト 気軽に国際貢献！



- **リーダー**  
経済学部 経営情報学科  
2年 東家 光作
- **プロジェクト人数**  
23名
- **活動開始時期**  
2014年4月～
- **活動頻度**  
毎週木曜日の昼休みにメンバー全員でミーティングを行っています。イベントを予定しているときはミーティング以外の時間でも活動を行います。
- **連携・受入団体**  
北九州市立大学生協同組合
- **主な活動場所**  
北方キャンパス学生食堂
- **こんな人におすすめ！**
  - ・「食」を通じて国際貢献をしたい人
  - ・「食」に関する企画を計画して、世界の食の不均衡について考えたい人
  - ・SNSやポスター作成、ポップ作成などの広報活動をしてみたい人
- **今年度の活動実績**
  - ・学生食堂でのTFTフェアの開催
  - ・ゆうゆう壱番館でのTable For Twoについての講演
  - ・LEARNING SPACE CANDLEでのCANDLE MARCHへの出店
  - ・おにぎりアクション
  - ・グループホームきらめき上の原でのきらフェスへの参加
  - ・大学祭でのチラシの配布



私たちは「食」を通じた国際貢献を目的に活動しています。TFTとはTable For Twoの略称で「2人のための食卓」を意味し、先進国と開発途上国の食の不均衡を解消する活動に取り組んでいます。

主な活動内容は、北方キャンパスの学生食堂で開催される「TFTフェア」で、売り上げの一部を発展途上国の子どものための給食費として寄付するためのメニューを提供することです。そのほかにも学外のイベントに参加して、講演や自分たちが考案したメニューの販売を行っています。

### ◆ プロジェクトで活動する学生の声

私たちは学内の活動だけでなく、年に数回学外のイベントに参加し、様々な世代の方々にTFTの活動を広め、支援の輪を広げています。日本にないが国際貢献が可能であることの周知活動を通して、間接的に食の不均衡の是正に携わることが実感できます。

### 今年度の活動の内容と成果

今年度は新たな取り組みを多く行いました。定例的な活動としてはTFTフェアを3度実施し、フリーマーケットイベントであるCANDLE MARCHに、売り上げの一部を寄付することを目的に2度参加しました。TFTフェアでは、北九大学生にTFTの取り組みを知ってもらうことを目的に広報活動に取り組みました。TFTフェアのメニューを選定するにあたり、アンケートで多くの学生から意見を募りました。結果としてTFTの活動への関心を得ることができました。

また今年度も、SNS投稿1回につき5食分の給食費が発展途上国の子どものために寄付される「おにぎりアクション」に参加しました。私たちは、約1ヶ月間で33枚のおにぎりの写真をSNS (Instagram) に投稿しました。

それ以外にも、住宅型老人ホームゆうゆう壱番館でTFTについて講演会を行ったり、小規模多機能ホームきらめき上の原で行われたきらフェスに参加し、TFTや「おにぎりアクション」についてのチラシを配布したり、学外の方々にも活動の協力を呼びかけました。その結果、TFTの活動の新たな支援の輪が広がっています。

### 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今年度の反省は、広報活動の取り組みが不十分でした。そのため次年度は広報活動に力を入れ、学内外問わず情報の発信をします。学内ではイベント期間以外のポスターの掲示や青嵐祭での出店を行い、学外向けには公式SNSへの頻繁な投稿と外部イベントへの参加をしたいと思います。

また、プロジェクトメンバーが増えたので、人数を活かした大規模な企画や他のプロジェクトとの交流など新しいことにも挑戦していきたいと考えています。



## STEP2 PROJECT 11

## 国際交流プロジェクト FIVA 文化の魅力を分かち合い、 共生の花を咲かせよう



- **リーダー**  
外国語学部 国際関係学科  
2年 野崎 愛佳
- **プロジェクト人数**  
39名
- **活動開始時期**  
2016年4月～
- **活動頻度**  
毎週1回の定例ミーティング  
月に4・5時間程度の交流会
- **連携・受入団体**  
北九州YMCA学院  
公益財団法人北九州国際技術協力協会 (KITA)
- **主な活動場所**  
学内  
北九州YMCA学院  
北九州市内及び近隣地域
- **こんな人におすすめ！**
  - ・異文化交流に興味がある人
  - ・外国人の友だちを作りたい人
  - ・イベントや交流会などの企画・運営をしてみたい人
- **今年度の活動実績**
  - ・YMCAの留学生と月に1回程度の交流会
  - ・YMCAについての講演会
  - ・YMCA多文化共生わいわい祭り出店
  - ・KITAの研修員との交流会



私たちは、外国人の方との交流を通じた「多文化共生社会」の実現を目標としたプロジェクトです。主に、北九州 YMCA 学院の留学生や、北九州国際技術協力協会 (KITA) の研修生と交流しています。異文化を学びながらも、自分たちの文化や言語についても学びを深められるのが大きな魅力です。外国人の方々が安心して暮らすことを目指す私たちの活動が、共生社会を築いていくために、少しでも貢献できればと思っています。

### ◆ プロジェクトで活動する学生の声

活動を通して、異文化交流をすることができたり、自分と異なるバックグラウンドをもった友だちができたりするという点が特にこのプロジェクトの魅力だと実感しています。今後も交流を通して自分たちの知見を広げていきたいです。

### 今年度の活動の内容と成果

今年度は新型コロナウイルスの脅威も少しずつ落ち着いてきたことで、定期的に活動を実施することができました。月に1回ほど行っている交流会では、メンバーそれぞれが留学生一人一人に親身になって向き合いコミュニケーションを取っていく上で、互いの文化に対する理解を深め、相手を尊重しようという思いを胸に活動を進めてきました。特に、北九州YMCA学院主催のわいわい祭りに出店した際は、日本文化の一つである「かるた」を自分たちで作成し、実際に留学生や参加者とかるたをしました。留学生と和気あいあいとした雰囲気で行うことができただけでなく、自国の文化や言語に対する関心も高まるきっかけになったのではないかと思います。所属メンバーが多いメリットを活かし、年齢や国籍の異なる留学生に温かく寄り添い、多くの交流の場を持つことができました。

### 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今年度は、北九州YMCA学院との交流会を定期的に開催したり、イベントに出店させていただいたりするなど、積極的に活動の場を設けることができました。今後は、他のプロジェクトと連携した企画の実施や北九州市ならではの場所やものに注目した取り組みなども視野に入れながら、活動の幅を広げていきたいと考えています。また、より多くの方々と交流することで、異文化理解の輪を広げていきたいと思っています。



## STEP2 PROJECT 12

# 地域クリーンアッププロジェクト アットホームな雰囲気 で 綺麗なまちをめざす



- **リーダー**  
法学部 政策科学科  
3年 酒井 穂波
- **プロジェクト人数**  
19名
- **活動開始時期**  
2015年4月～
- **活動頻度**  
毎月第2、第4水曜日  
17時30分から約1時間程度
- **連携・受入団体**  
NPO法人greenbird
- **主な活動場所**  
北九州市立北方市民センター
- **こんな人におすすめ!**
  - ・他学部学科や社会人、中高生など様々な人と関わりを持ちたい人
  - ・ゴミ拾いに興味のある人
  - ・人と話すことが好きな人
- **今年度の活動実績**
  - ・北方周辺の定例清掃
  - ・小倉商業高校、小倉南高校とのコラボ清掃
  - ・お花見清掃
  - ・ハロウィン仮装清掃
  - ・SNSでの活動発信
  - ・SDGs修学旅行の受入れ



このプロジェクトは楽しくアットホームな雰囲気で活動することを目的として、大学周辺でのゴミ拾い活動を行っています。お花見清掃やハロウィン仮装清掃など季節ごとのイベントを取り入れ、楽しみながら清掃活動を行えるように工夫しています。また、ゴミ拾い活動を続けることで「ゴミ捨てすることはカッコ悪いことだ」という気持ちを広めることを目指しています。

### ◆ プロジェクトで活動する学生の声

北九大学生はもちろん、他大学の学生や社会人、中高生など様々な方が参加しており、ゴミ拾いをしながら会話することができてとても楽しいです。また、活動頻度も月に2回と参加しやすい回数のため、学校やアルバイトとの両立もしやすいです。

### 今年度の活動の内容と成果

今年度の主な活動は定例清掃と、昨年度に引き続き小倉商業高校と小倉南高校とのコラボ清掃を行いました。定例清掃は雨で中止になってしまう事もありましたが、たくさんの人に参加していただきました。小倉商業高校と小倉南高校とのコラボ清掃では総勢40名の高校生に参加していただきました。このような活動を通して幅広い世代の参加者が楽しんでもらえる雰囲気づくりを行うことの難しさを実感しました。また、高校生とのコラボ清掃では、参加した高校生から「意外とゴミが落ちていてびっくりした」や「タバコのゴミ捨てが多くて拾うのが大変だった」などの声があり、身近なところから環境問題について考えてもらうきっかけをつくることのできたのではないかと思います。

また、今年度は新たにSNSでの情報発信も始めました。環境問題への関心を高め、清掃活動への参加のハードルを下げることを目的に普段の活動の様子を発信しました。その結果SNSを見て興味を持ったという参加希望者が増えました。

### 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

来年度は「雰囲気づくり」と「SNS発信」の2つに力を入れていきたいと考えています。継続して参加して下さる方々や新たに参加して下さる方々が楽しみながらゴミ拾いをするような取り組みを行っていきたくと考えています。また、SNS発信を通して、私たちの活動を知ってもらおうと同時に新たなつながりを増やしていきたいと考えています。



## STEP2 PROJECT 13

# まち美化魅力向上プロジェクト Clear 「北九州ならではの」を活かして 「魅力向上」へ!



- **リーダー**  
地域創生学群 地域創生学類  
1年 押川 佳蓮
- **プロジェクト人数**  
8名
- **活動開始時期**  
2020年4月～
- **活動頻度**  
月に8時間程度  
毎週月曜日のミーティング  
清掃活動等
- **連携・受入団体**  
株式会社ミクニ
- **主な活動場所**  
学内  
三萩野バス停  
神嶽川周辺
- **こんな人におすすめ!**
  - ・北九州の魅力を学びたい人
  - ・地域の人と共に北九州を盛り上げたい人
  - ・自分たちで企画から実行までやってみたい人
- **今年度の活動実績**
  - ・週1回の株式会社ミクニとの定例清掃
  - ・月1回の神嶽川清掃
  - ・活動に関するSNS投稿
  - ・InstagramでミクニMAPの作成
  - ・421Lab.動物福祉プロジェクトとのコラボ企画（わんわんごみ拾いへの参加）



私たちは、「北九州市の魅力向上」を第一に活動しています。清掃活動を通じての地域交流だけでなく、SNSの活用など様々なアプローチから魅力を発信することに挑戦しています。このプロジェクトの特徴は、地元企業との関わりがあることです。今年度は、合同清掃を行い、新たな活動を始めることができました。北九州市の魅力をどのようにして向上させ、皆さんに伝えていくか、日々模索しながら頑張っています!

### ◆ プロジェクトで活動する学生の声

他学部生とつながりを作ることができ、活動以外のことで相談できるような友人が増えました。また川清掃活動での地域交流は北九州のことを知る良い機会となっています。定例ミーティングで意見を述べることで考える力や伝える力を養うことができ、自分の成長を実感することができます。

### 今年度の活動の内容と成果

毎週の定例ミーティングは欠かさず行い、目標の確認や活動をより良く改善するための話し合いの場を設けました。三萩野バス停周辺の清掃では、地域の方からの温かい声や差し入れ等をいただき、活動して良かったと思います。神嶽川清掃に今年も引き続き参加しました。この活動は地域の方と交流できる貴重な機会であるので、とても充実した活動になっています。8月には、動物福祉プロジェクトとのコラボ企画として、中央公園交流広場にて行われた「わんわんごみ拾い」に参加しました。動物福祉プロジェクトの活動理念と、私たちの活動理念を両方踏まえた、とても実りある活動ができたことと実感しています。また、連携先である株式会社ミクニの社員の方々にも、活動に参加していただく機会があり、企業と密接に関わることができる、このプロジェクトの魅力を活かした年になりました。

### 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

例年の清掃活動に加えて今年から学内に設置されたシェアサイクルを活用して近くのカフェに行き、それをSNSで紹介することで地域の魅力発信に繋げる活動を始めました。来年度は、新2年生が中心となって活動していくことになりませんが、今ある活動やつながりを大切にしつつ、より私たちの活動を知ってもらえるようにSNS発信に力を入れたいと考えています。今後も地域の魅力を向上できるようにメンバーの力を合わせて頑張ります。



## STEP2 PROJECT 14

### 青空学プロジェクト

## 「環境」から考える北九州市の 今と未来



- **リーダー**  
法学部 政策科学科  
3年 佐伯 朱音
- **プロジェクト人数**  
7名
- **活動開始時期**  
2016年4月～
- **活動頻度**  
毎週金曜日昼休み定例ミーティング
- **連携・受入団体**  
NPO法人里山を考える会
- **主な活動場所**  
学内  
タカミヤ環境ミュージアム
- **こんな人におすすめ!**
  - ・環境問題に関心がある
  - ・地域に出て様々な人と交流しながら活動をしたい
  - ・企画を一から発案・運営したい
- **今年度の活動実績**
  - ・未来ホテルデーの出展者取材
  - ・ピザ窯を使ったピザ作り
  - ・タカミヤ環境ミュージアムにて北九州市の環境に関する勉強会
  - ・タカミヤ環境ミュージアムにて小学生に向けた環境学習（風鈴作り）の実施
  - ・エコライフステージにてブース出展（魚・海洋ゴミ釣りゲーム）



私たちは、北九州市の環境問題について、学生の視点からアプローチを考え、実践していく中で解決への糸口を探る活動を行っています。今年度は、「北九州市の今と未来の環境を守るために、現状を伝えていくこと」を目的とし活動を行ってきました。

自分たちが学び続けることはもちろん、SNSやイベントを通して、環境について知り、考えてもらう機会を提供しています。

#### ◆ プロジェクトで活動する学生の声

今年度は、イベントの企画などを自分たちで一から考える機会があったため、一味違った学びを得ることができました。環境問題について自分たちで調べるだけでなく、小学生に伝える活動を通してアウトプットもできたので、貴重な経験を積んでいるなと感じています。

#### 今年度の活動の内容と成果

今年度は、北九州市の今だけでなく、未来も守り続けていくために、現状を伝えていくことを目的とし、始動しました。目的を達成していくために、伝える機会を3回以上つくることを数値目標と設定しました。実際に、①未来ホテルデーでの出展内容を青空学プロジェクトのSNSを通じて発信、②夏休みに小学生向けの環境学習の実施、③エコライフステージにて出展、の計3回達成することが出来ました。これまでの活動の反省であった「知識の提供が一面的になること」を避けるために、子どもたちが興味を持ってくれることや、学びに落とし込みやすい伝え方などを、模索しました。その結果、③のエコライフステージの出展では、2日間で計150名以上の子どもたちが参加し、魚釣りを通して海洋ゴミ問題の深刻さや自分たちが与える影響を体験してもらうことができました。今年度は、伝えることの難しさ、学びを共有し一緒に考えていくことの楽しさを痛感した1年だったと思います。

#### 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

次年度の目標として子どもたちへの学習効果の向上を掲げています。

今年度の課題として各企画の共通の狙いであった「子どもに環境のことを伝える」があまり達成できませんでした。今年度まで、イベントにおける集客の手法を掴むことができたので、今後は、イベントの質を上げ、より子どもたちへの学習効果の向上を図りたいと考えています。私たちが伝えたいことや想いが企画のターゲットに正確に伝わるよう、活動していきたいです。



## STEP2 PROJECT 15

### 平和の駅運動プロジェクト

## ピース！ ～平和へのかけらを集めよう～



- **リーダー**  
法学部 法律学科  
2年 三好 勝剛
- **プロジェクト人数**  
8名
- **活動開始時期**  
2011年4月～
- **活動頻度**  
週1回のミーティング、不定期（月1回程度）で学外活動
- **連携・受入団体**  
北九州市平和のまちミュージアム  
北九州平和資料室TICO PLACE  
北九州市立西小倉小学校  
北九州市立葛原小学校  
長崎市立城山小学校
- **主な活動場所**  
北九州市、長崎市
- **こんな人におすすめ!**
  - ・平和活動に興味がある人
  - ・企画を一から発案し、運営してみたい人
  - ・子どもと楽しく関わりたい人
- **今年度の活動実績**
  - ・北九州市立葛原小学校平和学習
  - ・北九州市立西小倉小学校平和学習
  - ・長崎市立城山小学校平和学習
  - ・青少年ピースフォーラム派遣引率ボランティア（平和のまちミュージアム主催）
  - ・SDGs修学旅行の受け入れ
  - ・広島市中高生ピースクラブ交流会（平和のまちミュージアム主催）
  - ・「ブンガクの街北九州」発信プロジェクトと北九州市立子ども図書館にて、築づくり・読み聞かせ・平和展示の開催
  - ・令和5年度小倉～長崎次世代交流平和推進事業（平和のまちミュージアム主催）
  - ・紙芝居鑑賞のデモテープ音源の録音（平和のまちミュージアム依頼）
  - ・戦争での体験を聴く会サポートスタッフ（TICO PLACE主催）
  - ・平和のまちミュージアムスタディーツアーガイドボランティア（6～12月で約60校）



私たち平和の駅運動プロジェクトは、戦争の記憶の風化と平和への意識の希薄化を問題と捉えて、若者を中心に平和についてもっと興味を持ってもらいたいという想いで活動しています。具体的には、小学校での平和学習、子ども図書館でのイベントへの参加、長崎や広島の子世代の人たちと交流等、平和について考える機会の提供と自分たち自身が平和についてより深く考えるような活動を行っています。

#### ◆ プロジェクトで活動する学生の声

小学校での平和学習の準備を通して、自分の平和観について考えなおす機会が多く、大きな学びになりました。また長崎の研修では、メンバーと一緒に2日間活動をするためメンバー間の仲も深まり、楽しく活動ができました。みなさんも私たちと一緒に、楽しく平和活動をしてみませんか？

#### 今年度の活動の内容と成果

今年度は、昨年度の目標であった「より多くの関係先とつながる」から発展させ、そのつながった関係先の方々と「深く関係性を築き、平和を広めていく」ということを目的に活動を行いました。まず、小学校での平和学習は、北九州・小倉の歴史、戦争の話だけでなく、児童が平和を身近に考えられるようにということで、普段使っているSNSを通して平和について考えてもらいました。自分の日々の生活と平和が密接な関係にあることを感じてもらえるような平和学習を企画・実施できました。平和のまちミュージアムに社会科見学に来た小学生に対するガイドボランティアは6月から12月の間に約60校行うことができました。それにより、同施設の方々と交流する機会が増え関係性が深まりました。またこれら以外にも北九州平和資料室TICO PLACE主催のイベントでは、スタッフとして参加させていただくことができました。

#### 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今後は様々な団体や施設との関係をさらに深めつつ、新たな活動の展開を目指しています。また今までの小学校での平和学習や「ブンガクの街北九州」発信プロジェクトとの子ども図書館でのイベント活動などを継続して行いながらも、新たな活動を始め、様々な人が平和について考える機会を創り出していきます。そしてこのような活動の様子はSNSを通して、よりたくさんの人に発信していきます。私たちは今後も「楽しく」「真面目に」活動をしていきたいと思っています！



## STEP2 PROJECT 16

# 英語で遊ぼうプロジェクト 英語と異文化を子どもたちと学ぶ



- **リーダー**  
文学部 比較文化学科  
2年 佐藤 ひかり
- **プロジェクト人数**  
10名
- **活動開始時期**  
2021年4月～
- **活動頻度**  
毎週金曜日の昼休みにミーティング  
不定期でイベントを開催
- **連携・受入団体**  
コラボキャンパスネットワーク
- **主な活動場所**  
学内
- **こんな人におすすめ!**  
・子どもと関わるのが好きな人  
・英語・異文化理解に興味がある人  
・ものづくり（工作など）が好きな人
- **今年度の活動実績**  
・コラボキャンパスネットワーク主催の夏祭りへの参加（わくわくキッズプロジェクトとのコラボ企画）  
・子ども食堂での活動に参加（子ども食堂応援プロジェクトとのコラボ企画）  
・徳力小学校でのイベント参加  
・広徳小学校学童での活動に参加



本プロジェクトでは未就学児から小学生までを対象に英語や異文化理解に触れる活動を行っています。子どもたちに英語を楽しんでもらうために、英語かるたの作成や提携する団体が主催する夏祭りに参加し、お面づくりやストラックアウトを楽しめるブースの出店等も行っています。また、他のプロジェクトとの協働企画を行っています。来年度は、近隣小学校の学童で活動したいと考えており、現在はその準備を進めています。

### ◆ プロジェクトで活動する学生の声

今年度は、既存の活動に加え、新たな活動場所を増やすことができた幅広い年齢の子どもたちと交流することができました。子どもたちと接することで、子どもならではの視点を学ぶことができたため、毎回私たち自身もやりがいを感じながら活動に取り組んでいます！

### 今年度の活動の内容と成果

今年度は昨年度の反省を活かし、多くの場所で活動できたことで幅広い年齢の子どもたちと関わる事ができました。また、新しい試みとして他のプロジェクトとコラボ企画を実施しました。他プロジェクトのメンバーと一緒に企画づくりを行ったことで、新たな関係性が生まれました。

幼児向けのイベントや小学生を対象としたイベント等、様々な年齢の子どもたちと接し、そこから幅広い年齢の子どもたちが英語に楽しく触れることのできるものを作ろうという思いが生まれ、英語かるたの作成をしました。

今年度の反省として、未就学児を対象にした活動が多く、英語を使った活動が十分にできませんでした。幅広い年齢の子どもたちと関わる中で毎回新しい発見と達成感を味わうことができました。加えて新規のプロジェクトメンバーが多く入ったこともあり、昨年度より充実した時間を過ごすことができたと思います。

### 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今年度は昨年度の課題であった活動場所の拡大をすることができました。しかし単発の活動が多く、定期的な活動には至っていません。来年度は定期的に活動を行うことが出来る場所を確保したいです。また昨年度に引き続き、未就学児を対象に活動することが多く英語を使った活動があまりできませんでした。来年度は英語に触れることができるハロウィンやクリスマス等のイベントを増やしていきたいです。加えて既存の活動も引き続き力を入れていきます。



## STEP2 PROJECT 17

# 北九大もったいないプロジェクト 「もったいない」なら私たちに お任せ下さい!



- **リーダー**  
文学部 比較文化学科  
3年 山本 奈南羽
- **プロジェクト人数**  
12名
- **活動開始時期**  
2022年4月～
- **活動頻度**  
週に1回全体ミーティング（2023年度は毎週金曜日）  
夏休みの研修・イベント（数日間）
- **連携・受入団体**  
プレイセンター・ハロハロ  
北九州市コンポストアドバイザーの会
- **主な活動場所**  
学内
- **こんな人におすすめ!**  
・学校の課題解決に携わりたい人  
・SDGsや環境問題に興味がある人  
・チャレンジ精神が旺盛な人
- **今年度の活動実績**  
・教室・廊下の消灯や節電の呼びかけ  
・もったいない傘の管理・補充  
・弁当容器回収ボックスの設置（食堂）  
・高倉式コンポストの設置  
・リサイクルに関する学習会の開催（子ども食堂応援プロジェクトとコラボ）  
・竹ストロー製作ワークショップの開催  
・メディアからの取材対応  
・大木町研修  
・高倉式コンポスト研修  
・SDGs修学旅行の受け入れ  
・定例ミーティング  
・SNS運営



北九大もったいないプロジェクトでは、学内に潜む「もったいない」を見つけ出し、持続的に有効活用するための方法を考え実践する活動を行っています。食品ロスや節電、リサイクルなど私たちにとって身近な課題を取り上げることで、学生の環境問題に対する意識の向上を目指しています。個々の意見が活動に反映されやすく、また何事にも挑戦できる環境であるため、メンバー全員が主体性・責任感を持って課題解決に取り組んでいます。

### ◆ プロジェクトで活動する学生の声

活動を通して、一つの目標に向かうまでの過程で様々な問題を自分たちで考える力、また、その問題に対してどう対処していくのかを考える力が身につきました。小さな気付きも全員で話し合い、試行錯誤しながら実現させることの楽しさに気付きました。

### 今年度の活動の内容と成果

今年度は学内だけでなく、学外にも活動の幅を広げることができました。

学内では、「教室廊下の消灯」「放置傘の再利用」「弁当容器の回収」「コンポスト」の4つの活動班に分け、メンバーそれぞれが主体性・積極性をもって活動に取り組みました。

今年度は「もったいないPJの認知向上」と「成果の数値化」に力を入れ、校内放送やサイネージを活用した宣伝活動や、弁当容器の回収数の可視化を行いました。特に今年度から始めたコンポストは、夏休みに市の研修を受講し、基礎を十分に学んだ上で取り組みました。学内で発生する廃棄食品の堆肥化を進め、来年度以降は学内の緑化に用いる予定です。

学外では、小学生親子を対象とした「環境に優しい竹ストロー製作ワークショップ」を開催しました。このイベントはテレビ取材を受け、多くの人から反響を頂きました。竹からストローを作る過程を通して、子どもたちが環境問題について楽しく考える機会になりました。

### 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

まだまだ学内に潜んでいる「もったいない」を見つけ出し、どこよりもエコな大学にしていきたいです。「北九大＝もったいないプロジェクト」と言ってもらえるように更なる認知度向上を目指し、一般の学生も活動へ巻き込むことで、学内全体が環境問題への意識を持つことができる取り組みをしていきたいです。



## STEP2 PROJECT 18

### KITAG キャンパス SDGs

## 10年後の北九大をSDGsで より豊かに



- **リーダー**  
文学部 比較文化学科  
2年 森 菜乃子
- **プロジェクト人数**  
11名
- **活動開始時期**  
2022年4月～
- **活動頻度**  
週に1回、昼休みにグループごとに  
ミーティング
- **連携・受入団体**  
株式会社タカギ
- **主な活動場所**  
学内
- **こんな人におすすめ!**
  - ・SDGsに興味がある人
  - ・大学生活を送るなかで何かアクシ  
ョンを起こしたい人
  - ・北九州市立大学をより良くしたいと  
感じる人
- **今年度の活動実績**
  - ・学内の浄水器の運用
  - ・浄水器利用状況のデータ収集
  - ・浄水器の周知活動
  - ・浄水器の周りの装飾



私たちは学内のSDGs文化の醸成を目的に活動しています。「10年後の北九大はどうあるべきか?」「自身の大学や大学生活をどのようにしたいか?」という問いに、SDGsの観点を活かしながら、学生自らがアクションを起こすことを重要視しています。現在、みず色PJ(みずからプロジェクト)では北方キャンパス本館A-101の横に、無料の浄水ウォーターサーバーを設置しています。学生が清掃や利用量を記録して運用することと、学内に向けて周知活動を行っています。

#### ◆ プロジェクトで活動する学生の声

他学部の学生や教員と話す機会、企業や団体の話を直接伺う機会に恵まれました。この活動を通して、様々な人と話し、考えることは簡単ではありませんが、とても貴重な経験をさせていただいてると実感しています。また、何か大学でアクションを起こしたいと思っている人は、それを実現させるきっかけになるとと思います。

#### 今年度の活動の内容と成果

【みず色プロジェクト】学内のペットボトルごみを減らし、すべての人が安心して、美味しい水を手に入れることを目指して活動する本プロジェクトでは、今年度から本格的に浄水器の運用を開始し、浄水器の管理と周知活動を主に行いました。

日々の清掃、利用量の調査に加えて、浄水器の宣伝に力を入れました。講義内やポスターで浄水器利用の呼びかけをするだけでなく、大学祭での出店を行いました。浄水器の存在を知らない方に認知してもらったり、いつも利用していただいている方にみず色プロジェクトを知ってもらえたりするきっかけになりました。

さらに、1月には設置して1周年を記念して、ウォーターサーバーの装飾を一新しました。北九州の竹林問題に触れてもらう為、有名な合馬の竹を用いております。その他にも学内で宣伝放送・利用者様に向けてのプレゼント企画を実施いたしました。株式会社タカギの協力のもと集めた利用者様の声には、「設置から何度も利用している」「便利で助かっている」「自然と水筒を持ち運ぶようになった」等ありがたいお言葉をいただいております。メンバー一同これらの言葉を励みに今後とも活動していきたいです。

#### 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

【みず色PJ】浄水器の利用者から2台目を設置してほしいという声を受け、北方に2台目設置、ひびきのキャンパスでの設置を目指して活動してきました。大学や企業と協力しながら、その目標を達成できるように努めていきます。また、大学生活をより良くするための新たな活動にも取り組み、学生、教職員問わず、学内全構成員に興味を持ってもらえるような活動にしていきたいです。

皆さま、今後ともみず色PJの活動と浄水ウォーターサーバーをよろしく願っています!



## STEP2 PROJECT 19

### 生理の貧困プロジェクト

## 生理を身近に、誰かのためになる ことを今始めよう



- **リーダー**  
法学部 法律学科 3年 亀田 遥  
地域創生学群 地域創生学類  
3年 原 希実
- **プロジェクト人数**  
20名
- **活動開始時期**  
2022年4月～
- **活動頻度**  
月に2～3日 昼休みの時間
- **主な活動場所**  
学内
- **こんな人におすすめ!**
  - ・生理やジェンダーに興味がある方
  - ・生理用品が当たり前に使える環境を作りたい方
  - ・イベントの企画や運営を行ってみたい方
- **今年度の活動実績**
  - ・北九大生理の日イベント開催  
(北方キャンパス内)
  - ・タンポンに関するアンケート実施
  - ・タンポンチャレンジデー開催
  - ・学生サミット参加(フランク・ウー アジア国際交流ホール)
  - ・クリスマスドライブ実施  
(ナプキンやタンポンを寄付してもらい、学校のトイレに配布)



私たちのプロジェクトは、生理の貧困問題を身近なものにしてもらうための活動を行っています。まず、生理を取り巻く課題を把握し、その課題の解決に向けた活動内容を検討します。そして、生理やジェンダーを女性や当事者だけでなく、すべての人々に身近なものであると感じてもらえるためのイベントを企画し実行します。また、生理やジェンダーに対するマイナスイメージを払拭することも私たちの目標の一つとしています。

#### ◆ プロジェクトで活動する学生の声

生理やジェンダーについて誰かと話し、何か活動をする機会はありません、タブーだとされている風潮があると感じています、この活動を通して学内や学外の人たちに生理やジェンダーについて知ることの大切さを伝えることができとてもやりがいを感じています。

#### 今年度の活動の内容と成果

生理の貧困プロジェクトでは、昨年度に続き『北九大生理の日』を開催し、多くの方が生理に対する悩みや考えを伝え合う機会をつくることができました。また、昨年の『クリスマスドライブ』で配布し切れなかったナプキンやタンポンも配布し、たくさんの方から感謝のお言葉をいただきました。そして12月には、『クリスマスドライブ』を昨年度と同様に実施し、ナプキンやタンポンを寄付できる余裕がある方から寄付していただいた後に、集まった生理用品を学内のトイレに設置し、無料で配布しています。これにより、生理用品を必要とする人や困っている人に届けられ、「助かった」「この活動をこれからも続けてほしい」とのお言葉をいただきました。2023年11月には、新たに『学生サミット』に参加し、学外の方々に私たちの活動や生理やジェンダーについての情報を伝えることができました。今年度は全体的に、有難いことに多くの方々のご協力により生理の貧困の解消に向けて一歩前進できた年となりました。

#### 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今はまだ学内での活動が主なので、今後活動していく中で、これからもっと私たちの活動を広めるために、学外での活動にも積極的に取り組んでいきたいと思っています。また、タンポンに抵抗がある人が多いため、タンポンについての知識をもっと伝えたいと思っています。今よりもっと学生の生理の貧困を解消できるようイベントの内容を試行錯誤し、より良いものにできるよう日々活動していきたいと思っています。



## STEP2 PROJECT 20

### 北九州文化観光プロジェクト

## 北九州市の文化観光プログラムを 学生視点でプロデュースしよう！



- **リーダー**  
法学部 政策科学科  
3年 門田 真奈
- **プロジェクト人数**  
17名
- **活動開始時期**  
2023年5月～
- **活動頻度**  
週に1回程度  
(月に1～2回フィールドワーク)
- **連携・受入団体**  
東田ミュージアムパーク実行委員会  
北九州市役所
- **主な活動場所**  
学内  
東田エリア (八幡東区)  
門司港周辺 (門司区) など
- **こんな人におすすめ！**
  - ・北九州市の文化観光やまちづくりに関心のある人
  - ・好奇心と探求心が旺盛な人
  - ・学生視点で様々な発想をすることが好きな人
- **今年度の活動実績**
  - ・東田地区周辺のフィールドワーク
  - ・東田ミュージアムパーク実行委員会での活動報告
  - ・文化観光の関係団体等へのインタビュー調査
  - ・東田地区における文化観光プログラムの立案



私たちは学生視点で北九州市の文化資源を点検・発掘した上で、新たな活用方策や連携による価値創出を検討し、魅力的な文化観光プログラムづくりを目指しています。今年度は八幡東区の「東田エリア」を対象とし、文化施設・商業施設・行政・地域住民の4つの視点から文化観光プログラムを検討しました。現地調査やヒアリング調査、学生同士のディスカッションを重ね、協力連携しながら取り組んでいます。

#### ◆ プロジェクトで活動する学生の声

まちあるきやインタビューを通じて、東田地区の未来をより良くするための活動に取り組んでいることを実感しています。また、行政・文化施設・商業施設・地元の方々と交流する機会も増え、これまで知らなかった地域の魅力や人々の想いについても学ぶことができました。

#### 今年度の活動の内容と成果

今年度から新規プロジェクトとしてスタートし、まずはメンバー同士の親睦を深めること、文化観光についての知識を得ることから活動を始めました。2023年度は「東田エリア」に焦点を当て、いのちのたび博物館や環境ミュージアム等の文化施設、イオンモール八幡東や THE OUTLETS KITAKYUSHU 等の商業施設、さらに八幡中央町商店街や東田大通公園等を含めたエリア一体の文化観光プログラムを検討しました。

文化観光プログラムの検討にあたって、東田地区周辺のまちあるきに加え、同エリアにおける文化観光の担い手を文化施設・商業施設・行政・地域住民の4つに分類し、関係団体等へインタビュー調査を実施しました。それぞれの視点から東田エリアをどのように見ているのか、文化観光推進に関する考え等をお聞きし、意見交換を行うことができました。さらに「まつり起業祭八幡2023」では八幡東田未来共創社会実験にボランティアとして参加し、ソーシャルアートを体験する貴重な機会になりました。

#### 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今年度は東田エリアにおける文化観光プログラムを検討しましたが、来年度以降も地域の価値創出につながる取り組みにフォーカスし、文化観光関連団体やまちづくり団体との連携を継続していくほか、門司区や若松区等の他のエリアにおける文化を核とした地域ブランディングにも取り組むたいと考えています。次年度もこのプロジェクトの特徴である学生視点・分野横断性・共創的コンセプトの設定を軸に、より主体的かつ積極的に活動できるように頑張ります。



## STEP2 PROJECT 21

### 北九大認知度向上プロジェクト

## 一人ひとりがリーダー ～地域と世界と歩み、創造する～

- **リーダー**  
法学部 法律学科  
2年 高野 朱史
- **プロジェクト人数**  
20名
- **活動開始時期**  
2023年7月～
- **活動頻度**  
2023年11月時点では、毎週火曜日にコアメンバーで、月に1度火曜日昼休みと3限に全体で会議を行っています。
- **連携・受入団体**  
学内
- **主な活動場所**  
学内外
- **こんな人におすすめ！**
  - ・SNSを利用して情報発信する力を身につけたい方
  - ・将来の進路として、マスコミや広報を志望している方
  - ・取材活動やブランディングをしたい方
- **今年度の活動実績**  
本学ホームページ「北QReal」の作成中



私たち北九大認知度向上プロジェクトは、本学のブランディングを目的としています。情報発信の対象は、本学の教職員や学生、高校生、取引先のほか、金融機関、行政機関、各種団体、地域住民など、あらゆる利害関係者です。学部・学群やサークル、ボランティア活動、国際交流、就職活動についてなど、取材を通して情報を集め、SNSやホームページで発信するまでの一連の流れを学生主体で行います。

#### ◆ プロジェクトで活動する学生の声

現段階では取材や記事を書くといった本格的な活動には至っていませんが、北九大の情報発信に向けて準備を進めています！自身が所属するコミュニティの魅力発信はもちろん、これまで知らなかった北九大の魅力を、情報発信力を身に付けられることを目指しています。

#### 今年度の活動の内容と成果

北九大認知度向上プロジェクトは今年度新設されたプロジェクトで、2023年11月時点では、学生主体で運用する公式ホームページ「北QReal」の作成に取り組んでいます。活動の取りまとめをするコアメンバーと担当の先生では毎週会議を行い、メンバー全体では月に1回ほどミーティングを行い、「北QReal」の内容や構成を決定している段階です。「北QReal」には、活動概要にも記載していますように、各学部・学群、サークル・クラブ活動、ボランティア活動、国際交流・留学、就職活動、大学周辺地域の情報などを掲載していく予定です。「北QReal」は学生主体で運用していくので、学生目線での、楽しい情報の発信に努めていきたいと考えております。本学の個性豊かな教授やゼミ情報、イベントなど入学前に知っておきたい情報に加え、サイトを訪れた方が一息つけるような「北QReal」のオリジナルコンテンツも考案中です。手探り状態ではありますが、少しずつ活動を進めています。

#### 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

2024年3月には「北QReal」を一般公開する予定です。そのために、サイトの大枠を完成させつつ、画像・動画編集チームと文章作成チームに担当分けをして、現在取材中です。「北QReal」のみならず、「Instagram」や「X (旧 Twitter)」、「Youtube」といったSNSを活用した情報発信を充実させていきたいです。本学の認知度向上を目指して常に情報更新させていけるよう、多くの方のお力をお借りしつつ活動していきたいです。





## 2023 地域活動発表会

1月21日に地域活動発表会を実施しました。地域活動発表会とは、421Lab. に所属する各プロジェクトが、1年間の活動内容や成果、今後の目標を発表しコンテスト形式で表彰を行うイベントです。本イベントは421Lab. 学生運営スタッフのメンバーが主体となって、企画・準備から当日の運営まで行いました。

今年はポスターセッション部門・発表部門の2部門に分けて実施しました。当日は学生のみならず、地域の方々

やお世話になっている企業の方々にお越しいただき、大盛況のうちに終わることができました。

優れた成果を認められ、表彰されたプロジェクトは次の通りです。

【日時】2024年1月21日(日)14:00～17:30

【会場】北方キャンパス本館 A-101 特大大教室、多目的ホール

### ◎発表部門

最優秀賞 地域クリーンアッププロジェクト



ポスターセッション部門の様子



特別賞 (同窓会・後援会長賞) 子ども食堂応援プロジェクト



発表部門の様子



### ◎ポスターセッション部門

最優秀賞 421Lab. わくわくキッズプロジェクト (発表部門では優秀賞を受賞)



優秀賞 「ブンガクの街北九州」発信プロジェクト



421Lab. 運営スタッフ





## 前期振り返り・後期スタートアップ研修

421Lab. は前期での活動を単なる出来事や感動で終わらせないよう、振り返りを行うことで後期の活動をより良いものにしています。学生の成長やプロジェクト活動での反省を共有し合うことでプロジェクト間の学びにも繋がっています。また、学生運営スタッフが企画から当日の進行まで担当することで、ファシリテーション能力を養うことができます。

### 前期振り返り・後期スタートアップ研修 / マナー講座

【日時】2023年10月14日(土) 10:00～12:30

後期開始と同時期に全プロジェクトを対象に「前期振り返り・後期スタートアップ研修」と「マナー講座」を行いました。

前期振り返り研修では、目的と目標の違いを再度確認し、前期に定めた目標が達成されたかをプロジェクトごとに振り返りました。そしてその後、それぞれのプロジェクトからメンバーを出す形で複合班を作り、前期の反省を共有しました。これにより、他プロジェクトの活動への理解を深め、参考にする場となりました。

後期スタートアップ研修では、前期の振り返りと他プロジェクトの反省を参考に、後期の目的と目標を定め直しました。また後期の具体的な活動予定では、他プロジェクトと自プロジェクトの関連性を考え「コラボレーション企画」で新しい取り組みを検討するプロジェクトもありました。

マナー講座では、服装や正しい言葉遣いなど地域で活動していく上で大切なマナーを○×クイズ形式で学びました。活動中に起きる様々な状況の問題に対して、プロジェクト対抗で競い合い、楽しみながら学べる講座となりました。

プロジェクト支援グループは、こうした研修を通しプロジェクトの不安や課題を把握し今後の支援内容の参考にしています。前期振り返り・後期スタートアップ研修は各プロジェクトが活動目標を見直すだけでなく、今後やってみたいこと、その時の課題が分かる場となりました。そしてプロジェクト支援グループ、各プロジェクト同士が一丸となる後期のスタートアップとなりました。

#### プログラム

##### 内 容

- ①前期スタートアップ研修の振り返り (5分)
- ②各プロジェクトでの振り返り (10分)
- ③プロジェクト間での共有 (25分)
- ④各プロジェクトの後期の目標決定 (25分)
- ⑤マナー講座 (40分)
- ⑥研修アンケートの記入 (5分)

#### 当日に使用したパワーポイント

##### 02 マナーとは？

人と人との関わりで  
当然その場で  
しかるべきとされる  
行儀・作法のことを指す。

##### メリット

- ・人間関係、活動、仕事などが円滑にすすむ。
- ・信頼感を得られる。



# 2023 年度 トピックス 1

## 「環境 ESD 演習 I」 フィールドスタディ (イギリス・ロンドン)

### 現地での活動内容 2023 年 9 月 25 日(月)～ 10 月 3 日(火)

- 9 月 25 日(月) ・ 出発(福岡空港→羽田空港→ヒースロー空港  
(ロンドン))
- 9 月 26 日(火) ・ ピアソンストリート冒険遊び場 視察
- 9 月 27 日(水) ・ ホマートングローブ冒険遊び場 視察
- 9 月 28 日(木) ・ ハックニーマーシュ冒険遊び場 視察
- 9 月 29 日(金) ・ エバーグリーン冒険遊び場 視察
- 9 月 30 日(土) ・ サムフォードグローブ冒険遊び場 視察
- 10 月 1 日(日) ・ 大英博物館周辺エリアのフィールドワーク
- 10 月 2 日(月) ・ 帰国(ヒースロー空港(ロンドン)→羽田空港  
→福岡空港)



### スケジュール

本プログラムは事前学習・現地学習・事後学習の3段階で実施

#### 1. 事前学習

毎週月曜日6限に自主勉強会を実施し、文献調査や調査方法について検討を行いました。また、事前に福岡県内の冒険遊び場で参加者へのアンケート調査及びスタッフへのヒアリング調査を実施し、県内の冒険遊び場の実態を把握しました。

#### 2. 現地学習

2023年9月25日～10月3日

#### 3. 事後学習(報告: 2023年10月15日)

ちくしの子ども劇場及び子どもの居場所を作ろう会主催「スタッフ養成講座」にて、イギリスの冒険遊び場視察報告を行いました。



### スタディツアーについて

今年度の副専攻環境ESDプログラムの演習科目である「環境ESD演習 I」では、イギリス・ロンドンへ行き、現地の冒険遊び場について調査しました。冒険遊び場とは、「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに、火遊びや木工遊びなど、通常の公園では禁止されているような、危険な遊びも自由に行うことができる遊び場のことです。現地では5つの団体を訪問し、運営するスタッフの方々から遊んでいる子どもたちまで、たくさんの方々と交流することができました。

また、帰国後は国内で冒険遊び場の立ち上げを検討している団体のイベントに出席し、ロンドンの冒険遊び場について学んだ内容を報告しました。



### 参加学生のコメント

#### 法学部政策科学科 3年 清原 綾華

今回のフィールドスタディでは、イギリス(主にハックニー区)の冒険遊び場を5か所見学しました。冒険遊び場が所在する地域ごとに、子どもを取り巻く環境は異なりますが、全施設に共通していたことは遊び場に関わるスタッフが子どもの意思を尊重し、対等な関係を築いているということです。子どもが自分たちの頭で考え、それを行動に移せる環境が整っており、スタッフの皆さんが子どものやりたいことを叶えようと奮闘される姿にとっても衝撃を受けました。特に驚いたのが、子どもたちの知識量です。触ってはいけない雑草や木の実の食べ頃、自然物を使った遊具の作り方など、日頃から自然に触れることが子どもたちの知識吸収につながっているのだと分かりました。また、他者と遊びながら知識を吸収し、新たな遊びに活かす経験を小さい頃から繰り返すことが、子どもの成長に繋がっていることを気付かされました。温かみを感じる木の遊具や時々顔を出す動物たち、皆で成長を見守っている木の実など、自然の中で愛に溢れるスタッフの皆さんと「自由」に遊ぶ様子を胸を打たれ、子どもの教育に関してもっと学んでみたいという気持ちがあります。

#### 法学部法律学科 3年 小松 史穂

私が今回のフィールドスタディで学んだことの中で、最も伝えたいことは「遊びに国境はない」ということです。子どもたちと交流した際、お互いの言葉を完全に理解できませんでした。しかし、ジェスチャーを交えて意思疎通を図り、また日本とイギリスで似た遊びもあったため理解することができ、すぐに打ち解けられました。冒険遊び場の視察では、もうこれ以上歩けないと思うほど遊び、とても楽しめました。子どもたちから遊びを提案された際は、私たちのことを受け入れてくれていると感じ嬉しかったです。また、帰り際には「次はいつ来るの?」と質問される等、見ず知らずの私たちを子どもたちは遊び仲間として捉えてくれました。遊びを通して仲良くなったことで、遊びが国境なく誰とでも楽しく過ごせることを実感しました。また私はこのフィールドスタディを通して、子どもの遊び環境に対する支援が、子育て支援につながるということを知り、さまざまな視点から物事を見ることの大切さも学びました。この気づきを将来に活かせるよう意識して行動していきます。

#### 外国語学部国際関係学科 3年 武藤 栄里

今回私たちは5つの冒険遊び場を訪れましたが、その中でも共通してスタッフの子どもたちへの関わり方が印象に残っています。スタッフは基本的に子どもたちの遊びに口出しをせず、子どもたちの自由を尊重していました。また、スタッフは子どもたちと友だちのような距離感で話をしており、このようなスタッフの関わり方が、冒険遊び場が子ども達にとって心地よい環境になっていると感じました。実際に、冒険遊び場に遊びに来ていた子どもたちは、閉園時間を迎えても最後まで残って遊びたがっており、子どもたちにとって大好きな居場所になっているのだと実感することができました。

今回の海外フィールドスタディを通じて、保護者や先生とは違った形で子どもと関わる大人の存在が、子どもの成長に繋がっていると実感できました。今回の訪問は子どもへの関わり方を考え直す良い機会になったと思います。これらを今後の子どもたちと関わる活動へと活かしていきたいです。

# 2023年度 トピックス 2

## 福岡ひびき信用金庫等と 包括的連携協定を締結

421Lab.と、2024年1月15日に創立100周年を迎えた福岡ひびき信用金庫（本店：北九州市八幡東区）、並びに九州で唯一の信用金庫が母体となっている地域密着型ベンチャーキャピタルであるひびしんキャピタル株式会社は、2019年11月に同信用金庫の取引先で組織する若手経営者の勉強会「ひびしんニューリーダー会」での交流会を皮切りに、基金を活用した地元就職応援事業等で連携を深めてまいりました。

この度、421Lab.と両社は、互いに有する環境、ノウハウ等を有効活用し、地域社会における実践活動を通じ、次世代を担う人材の育成を目指すとともに、地域貢献活動の一翼を担うことを目的とする「包括的連携協定書」を締結しました。

日 時：2023年9月25日（月）13：30～14：00

場 所：北方キャンパス 厚生会館2階 フランキー・ウー アジア国際交流ホール

参 加：32名（関係者含む）

### 【協力内容】

- (1) 地域の活性化に関すること
- (2) 産学金連携による人材育成に関すること
- (3) その他三者が合意した事項

### 【具体的な取組み】

地域情報誌「Catcatcha（きゃっっちゃ）」の制作。  
街や地域の企業紹介等を掲載。店舗や企業代表者へのインタビュー及び原稿作成を421Lab.の学生が担当。

### 【協定締結先】

福岡ひびき信用金庫 理事長 井倉 眞 様  
ひびしんキャピタル株式会社  
代表取締役 高木 勇二 様



# 2023年度 トピックス 3

## SDGs 修学旅行

421Lab.では、旅行代理店の東武トップツアーズ株式会社と協働して、SDGs学習を目的とした修学旅行生の受入れを行いました。本企画はもともと2019年から準備を進めていましたが、コロナ禍で活動が延期となっており、今年度から改めてスタートしました。今回、受入れを行ったのは兵庫県川西市立川西南中学校の生徒32名です。421Lab.に所属する4つのプロジェクトに分かれて、ワークショップを行い、それぞれのプロジェクトを通じてSDGsについて考えてもらいました。

実施期間：2023年10月4日（水）13：30～16：00

### 【活動スケジュール】

| 時 間   | プログラム                                                                                                                                                                                                   |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 13：30 | 中学生受入                                                                                                                                                                                                   |
| 13：40 | 大学紹介（学生運営スタッフ）                                                                                                                                                                                          |
| 13：55 | 中学校紹介（川西南中学校の生徒）                                                                                                                                                                                        |
| 14：10 | 各プロジェクトに分かれて活動<br>① KITAQ ∞「絆」復興応援プロジェクト<br>被災地の風化防止のために私たちにできること<br>② 北九大もったいないプロジェクト<br>身近に取組める「もったいない」を考える<br>③ 地域クリーンアッププロジェクト<br>清掃活動を通じた人同士のコミュニケーション<br>④ 平和の駅運動プロジェクト<br>原爆投下候補地だった北九州から考える「平和」 |
| 15：30 |                                                                                                                                                                                                         |
| 15：40 | 大学生と一緒に記念撮影                                                                                                                                                                                             |
| 16：00 | お見送り                                                                                                                                                                                                    |



# Leader's Voice

先輩インタビュー  
番外編

各プロジェクトでリーダーとして頑張っている学生にインタビューしました。  
どのような想いで活動に取り組んでいるのか、ぜひ知ってほしいと思います。

## 人数が多いからこそ、個々のメンバーを大切にする

【子ども食堂応援プロジェクト】 経済学部 経済学科 3年 元藤 彩羽 さん



子ども食堂応援プロジェクトは、現在4つの子ども食堂で活動をしています。私は1年生の頃から、城野市民センターで毎月行われている「子ども食堂ハッピー」に参加してきました。当初は、学生の参加率が悪く、月1回の活動にも関わらず、なかなか学生が集まらないといった事もありました。そうした中で私が留意したのは、全体に参加を呼びかけるのはもちろんですが、メンバー一人ひとりと個別に連絡をとって参加を呼びかけたことです。多い時には、30人と個別にLINEで連絡を取りました。こうした取組が功を奏してか、定期的に参加する大学生の割合が増加しました。そのため、子どもたちとも顔見知りになり、今では活気のある子ども食堂になってきたと思います。

現在、プロジェクトには80名を超す学生が登録をしています。ただし、全員が積極的に参加しているわけではなく、登録だけで活動にはあまり参加しないメンバーもいます。人数が多い上に、4箇所に分かれて活動しているため、メンバー間での顔見知りが少ない事が参加率が低い要因だと考えられます。新入生が入ってきた時点で交流会を開いたり、421Lab.の合同研修会の後にみんなで遊びに行ったりする等してメンバー間の仲を深めました。大人数だからこそ、一人ひとりの繋がりを大切にすることを重視して、活動に取り組みました。

## 1人ひとりが主体的に関わることができるような工夫

【平和の駅プロジェクト】 法学部 法律学科 2年 三好 勝嗣 さん



小学校での平和学習の指導や他プロジェクトと協働してのイベント開催、さらには平和ミュージアムでのガイドボランティアなど今年度も充実した活動を行う事ができました。

ちなみに、ガイドボランティアでは、おおよそ市内の小学校の2分の1にあたる60校をメンバー全員で分けて担当しました。特に印象に残っているのは、小学校で平和学習をした際に、子どもたちにメッセージカードを書いてもらったり、千羽鶴を折ってもらったりしたことです。それらを長崎の小学校に届けるために、後日小学校に受取りにいった際、自分たちが事前に用意をしていたメッセージカードに加えて、児童自らが作ったメッセージカードも手渡してくれました。自分たちが行った平和学習の成果を感じることができました。

年度途中で先輩から引継ぎリーダーとして活動をしてきましたが、昨年度のことを知っているメンバーが自分だけしかおらず、当初は自ら率先して動くことで、他のメンバーを引っ張るといった動き方をしました。一方で、一人ひとりが責任をもって関わることができるように何らかの役職に就いてもらいました。そうすることで、メンバーが主体的に関わってくれるようになったと感じています。

## 新たな活動を率先して興していく

【動物福祉プロジェクト】 経済学部 経営情報学科 2年 中谷 学斗 さん



今年度はプロジェクトの名称変更と活動内容の刷新といった変化に富んだ1年でした。昨年度まで使用していた「いぬねこプロジェクト」はネーミングこそ取っ付きやすく、多くの学生が登録をしていましたが、動物たちの命を扱うといった責任の大きい活動内容とのギャップから、活動に参加をしなくなる学生も多くいました。そこで、もっと責任をもって関わってほしいとの思いから「動物福祉」という文言を使用しました。プロジェクト名の変更だけでなく、活動内容についても見直しを図りました。プロジェクトの公式SNSを用いて飼い主の適正飼育に関する情報を配信したり、犬猫の譲渡会やアニマルセラピーを行っているNPO法人に新たにコンタクトを取り、イベントの手伝いやブース出店をしたりなど新しいことにチャレンジしてきました。アニマルセラピーの活動では、市内の福祉施設を訪問して動物と触れ合う機会をお手伝いしました。入所者の方はもちろんのこと、働かされている人も含めて皆さんが明るく元気になり、改めて動物たちの持つ力に驚かされました。今年度の取組を継続しつつ、次年度以降もプロジェクトとして色々なことに挑戦していきたいと思っています。

## 先輩たちの想いを知り、次の代へとバトンを渡す

【KITAQ∞「絆」復興応援プロジェクト】 文学部 比較文化学科 3年 糺井 遥香 さん



コロナ禍ということもあり、ここ数年はほとんど活動ができませんでした。メンバーも思うように集まらず、同学年のメンバーは自分一人だけとなり、リーダーとしてどうしていけばいいのかわかりませんでした。そんな中、昨年度初めて参加した「釜石まんぷくフェス2022」では、釜石市の方々と触れ合う機会があり、「ずっと忘れずに来てくれてありがとう。」と感謝されました。

また、今年度に入ってから、OBOGの先輩たちの力を借りて、プロジェクトの成り立ちやこれまでの活動内容を現役メンバーに向けて話をしてもらいました。釜石市や北九州市で私たちの知らなかった世代の先輩たちが築いてきた人の繋がりと歴史を肌で感じる事ができました。

今年度は、校内での焼うどん講習会や大学祭での出店に加え、市内の祭やイベント等での出店も行いました。出店回数を重ねるにつれ、メンバー同士の連携もとれ、再びプロジェクトとしての勢いが戻りつつあります。また、こうした被災地での活動を子どもたちに伝えるために小学校や市民センターで行われる防災学習に講師として参加しました。先輩たちから脈々と受け継がれてきた「絆」を次の世代へと引き継げるように頑張りたいと思います。

地域×大学生を掛け合わせたら何が生まれるか。今回は国際交流プロジェクトFIVA（以下FIVA）について取り上げ、受け入れ先の1つである北九州YMCA学院の谷崎さんにFIVAとの活動に対する想いや学生へのアドバイス等お話を頂きました。

●対談企業：北九州YMCA学院

●対談日：2023年12月7日(木)

●時間：1時間 ●場所：北九州YMCA

谷 谷崎 亮太さん  
(北九州YMCA学院)

森 森田 すみれ  
(外国語学部  
国際関係学科1年)

同席者 宮崎 紗菜  
(地域創生学群  
地域創生学類2年)

執筆者 黒肥地 亮太  
(地域創生学群  
地域創生学類1年)

## 質問1 北九州YMCAについて教えてください

谷 YMCAとは、全世界で約6,500万人の会員が活動する世界最大規模のNGOです。北九州YMCAでは2つ法人が活動しています。1つは公益財団法人、もう1つは学校法人です。  
公益財団法人は、子どもたちを対象とした体操教室やキャンプの開催、発達障害を持つ子どもたちのサポート、英会話などの語学教育、また市内7か所で学童保育の運営をしています。学校法人では、日本語学校の運営を行っており、留学生を対象に日々の授業や進路（進学や就職）、生活面のサポート等を行っています。



## 質問2 FIVAに関わることで、留学生に何か変化はありましたか？

谷 本校に通う留学生は日本人と接する機会が大変少ない現状にあります。そのため、留学生と日本人の交流の機会を作りたいという思いがありました。留学生が社会に出る前に、「日本人ってどのような性格・特徴を持っているのか」や「日本社会はどのような仕組みなのか」等を理解してもらいたいと考え、動き出したことが最初のきっかけです。  
その上で421Lab.に、「日本人と留学生との交流の機会を作りたい」と相談し、FIVAを紹介していただきました。FIVAに所属する学生さんが、私たちの活動について興味を持っていただいたことで、一緒に活動するようになりました。



## 質問3 北九州YMCA学院とFIVAとの活動内容について教えてください

谷 年に6回程度一緒に活動しており、イベントは全てFIVAの学生さんに企画をしていただいています。YMCAの中で参加者を募集する際は、イベントの内容を留学生全体に投げかけています。留学生の中には数週間だけ日本に訪れる短期留学生もいます。そのような学生たちの為に、小倉のまち歩きイベントを企画しました。プログラムの一環として、北九州市立大学の学食で一緒に食事をし、その後は大学内を見学しながら紹介していただくなどして交流を深めました。



## 質問4 大学生と交流することのメリットは何ですか？

谷 留学生とFIVAの学生は年齢が比較的近いため、私たち社会人よりも意思疎通のハードルが低いように感じます。歳が近い方が同じ悩みや思いを共有しやすいと思っているので、学生同士で交流できることは大きなメリットだと思います。

## 質問5 FIVAと交流したことで、留学生に何か変化はありましたか？

谷 留学生は日本人と話そうと意気込み緊張してしまうことが多々あります。なかには明るく賑やかな性格の持ち主もいる一方で、そうでない方もいらっしゃいます。いずれにせよ、日本に来たばかりの頃は、日本についての知識、語彙力がまだ低いので、「しっかりと意思疎通が図れるのか」等の悩みを抱えている留学生がほとんどです。しかし、FIVAの学生の方々が留学生に理解しやすいように話してくれるため、交流会の後は「想像していたよりも会話が成立する」という自信が生まれるようで、交流会での会話を楽しみにしている留学生がよく見受けられます。

## 質問6 今後、北九大生に期待することなどありましたら教えてください

谷 私たちは「多文化共生」の考えを重要視しています。世の中には実際に体験しなければ分からないことが多くあり、多文化共生について理解してもらうためにも、引き続き積極的にYMCAとの活動に参加してほしいです。  
交流を通じて見聞きし、知ったことを自身だけではなく周りの方にも伝え、広げていけるようになってほしいと思います。  
交流イベントは参加の回数を重ねていくことで自分なりの考え、やりたいことなどが見つかると思います。この機会に経験をたくさん積んでいただきたいです。



421Lab. にはセンターの運営を支えている「学生運営ス

その他にも、プロジェクト参加への第一歩となる「地域活動説明会」の企画・運営、イベントでの出展 PR などを行い、地域と学生とのつなぎ役として日々活動しています。

地域につながる小さな一歩

短期型の地域活動

2023 年度は 110 を超える短期型の地域活動を案内し、その中で 89 名の学生が参加しました。  
活動に参加することにより、地域とのつながりや大切さ、人とのコミュニケーションの重要性を学ぶことができました。

| 活 動 名 (内容)                            | 主 催 者                                          | 参加人数 |
|---------------------------------------|------------------------------------------------|------|
| 北九州下関フェニックス試合運営ボランティア                 | 北九州下関フェニックス                                    | 4    |
| 門司区日本語教室ボランティア                        | 公益財団法人 北九州国際交流協会                               | 1    |
| 福岡県立少年自然の家「玄海の家」体験活動ボランティアスタートアップセミナー | 福岡県立少年自然の家「玄海の家」                               | 1    |
| コンサート会場のボランティア                        | アコルテ（北九州の音楽文化を支える会）                            | 6    |
| 第 6 回グランドシニアシャレトーネショウ in 北九州          | グランドシニアシャレトーネショウ実行委員会                          | 1    |
| 教育支援における学生ボランティア                      | 北九州市教育委員会                                      | 4    |
| 小倉城竹あかり竹灯籠製作                          | 小倉城竹あかり実行委員会                                   | 11   |
| ボルクバレット北九州ホームゲーム                      | (一社) UBUNTU FS プロモーション                         | 7    |
| 平成竹取伝説                                | 北九州ピオトープネットワーク研究会                              | 1    |
| 北九州からあげ王座決定戦                          | 北九州からあげ王座決定戦実行委員会                              | 4    |
| 「全員、二刀流」社会人野球 運営ボランティア                | 日本野球連盟 JABA 福岡県野球連盟                            | 2    |
| まつりみなみ                                | まつりみなみ実行委員会                                    | 1    |
| わっしょい百万夏まつり                           | わっしょい百万夏まつり振興会                                 | 3    |
| 外国につながるをもつ子どものための夏休み宿題教室              | 公益財団法人 北九州国際交流協会                               | 7    |
| 第 49 回小倉南区子どもまつり                      | 小倉南区子どもまつり実行委員会                                | 1    |
| われら海岸探偵団                              | まちのカルシウム工房                                     | 2    |
| ハートフルコンサート                            | 百瀬ミュージックグループ                                   | 1    |
| 関門海峡キャンドルナイト                          | 関門海峡キャンドルナイト実行委員会                              | 4    |
| 小学生チャレンジ駅伝大会                          | 北九州市青少年市民会議                                    | 2    |
| YOUNG SANTA                           | 一般社団法人北九州青年経営者会議                               | 2    |
| 小倉城竹あかり作品搬入                           | 小倉城竹あかり実行委員会                                   | 1    |
| 小倉城竹あかり 2023                          | 小倉城竹あかり実行委員会                                   | 5    |
| 小倉城竹あかり作品撤去                           | 小倉城竹あかり実行委員会                                   | 1    |
| 小倉城竹あかり作品片付け                          | 小倉城竹あかり実行委員会                                   | 1    |
| キッズチャレンジエキスポ                          | 文化庁・一般財団法人仁泉指導会                                | 5    |
| リゾネイトマルシェ（空店舗対策支援事業）                  | 全国商店街支援センター・令和 5 年度空き店<br>舗対策支援事業・門司中央市場商業協同組合 | 1    |
| チャリティーサンタ                             | NPO 法人 チャリティーサンタ北九州支部                          | 1    |
| 櫛山荘公園周辺清掃                             | 私たちの未来環境プロジェクト                                 | 1    |
| 大里赤煉瓦食市                               | 門司区役所総務企画課・門司赤煉瓦プレイス<br>運営協議会                  | 1    |
| 平尾台クロスカントリー 2024                      | 平尾台クロスカントリー実行委員会                               | 1    |
| 北九州ラーメン王座選手権                          | 北九州ラーメン王座選手権実行委員会                              | 3    |
| 第 36 回チャレンジ 100 キロ                    | 北九州市子ども家庭局青少年課                                 | 1    |
| PTA 子どもフェスタ「多世代交流 未来カフェ」              | 北九州市 PTA 協議会                                   | 2    |
| 合 計                                   |                                                | 89   |

短期型地域活動の紹介

私が活躍できる場所、を見つけました

421Lab. では、1 日から参加できる短期の地域活動も学生に紹介しています。  
学生がそれぞれ得意なことを活かしながら地域で活動している様子をご紹介します。

『小倉城竹あかり灯籠製作』

毎年秋に開催される「小倉城竹あかり」の灯籠製作にボランティアとして参加しました。初めて扱う電動ドリルで竹に絵を掘ったり、ろうそくやライトを設置したり、このイベントならではの貴重な体験ができました。実行委員やボランティアの方たちと話をしながら作業を進めるのはとても有意義な時間でした。またその中で、竹は環境にやさしい資源や生活で便利なアイテムになることを学びました。



外国語学部英米学科 1 年 加峯 希美

『小倉城竹あかり 2023』

夏休み期間の竹灯籠作成とイベント当日のろうそく点灯の 2 回、体験させて頂きました。竹が実は厄介者で問題になっていることや、無数の竹を長い期間大変な作業をして作り上げていることを知ったうえでイベントに参加すると、いつもとは違う気持ちできれいな光景を見ることができました。運営という今まで知らなかった世界を知り、地域のために活動するのは素敵なことだなと感じました。



国際環境工学部環境生命工学科 1 年 竹内 綾音

『小学生チャレンジ駅伝大会』

私は競馬場を利用するお客様と駅伝大会に参加する小学生、応援する保護者の皆様が安全に楽しめるよう警備をするボランティアを行いました。駅伝に参加している小学生はもちろん、応援している保護者の皆様も全力で活気のあるイベントでした。ボランティアを通して警備の方への感謝の気持ちが大きくなったり、小学生の頃を思い出し懐かしさを感じたりした貴重な経験でした。



経済学部経済学科 2 年 楠生 優希

『われら海岸探偵団』

私は、若松区北部の妙見崎海岸で定期的に探索し、漂着物を収集する活動に参加しました。  
一見すると綺麗な砂浜、いざ海岸を隈なく探してみると、前日に海が荒れた影響から草むらの中に大きなゴミが点在していました。今、話題となっている海洋ごみについて肌身で感じられて、北方で過ごしていると中々関わることの少ない若松の方々と交流をする良い機会になりました。



地域創生学群地域創生学類 1 年 黒肥地 亮太

表彰実績

2023 年度地域共生教育センター活動記録

|      | 会 議                                                      |                                                                                |                                                                             |                                                                            | 研 修 ・ 報告会                                     |                                                          | SNS                           |
|------|----------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|----------------------------------------------------------|-------------------------------|
|      | 地域共生教育<br>センター会議                                         | 地域共生教育センター<br>運営部会                                                             | 事務局会議                                                                       | 学生運営スタッフ会議                                                                 | 教職員による<br>学生説明会                               | 運営スタッフ研修・報告会<br>(説明会・相談会)                                |                               |
| 4 月  | 第 1 回<br>4/3～4/7<br>(メール)                                | 第 1 回 4/12                                                                     | 第 1 回 4/11<br>第 2 回 4/18<br>第 3 回 4/25                                      | 第 1 回 4/12<br>第 2 回 4/19                                                   |                                               | 4/5～4/7<br>新入生向け相談会<br>4/17～4/28<br>ブース説明会               | Twitter 20 回<br>Instagram 2 回 |
| 5 月  |                                                          | 第 2 回 5/10                                                                     | 第 4 回 5/9<br>第 5 回 5/16<br>第 6 回 5/23<br>第 7 回 5/30                         | 第 3 回 5/10<br>第 4 回 5/24                                                   |                                               | 5/20 前期スタートアップ<br>5/24 マナー講座                             | Twitter 7 回<br>Instagram 1 回  |
| 6 月  | 第 2 回<br>6/8～6/14<br>(メール)<br>第 3 回<br>6/28～7/4<br>(メール) | 第 3 回 5/31～6/5<br>(メール)<br>第 4 回 6/7                                           | 第 8 回 6/6<br>第 9 回 6/13<br>第 10 回 6/20<br>第 11 回 6/27                       | 第 5 回 6/7<br>第 6 回 6/14<br>第 7 回 6/28                                      | 6/19～6/21<br>(同窓会助成金説明会)<br>交付決定通知及び<br>配当金配布 | 6/14 マナー講座<br>6/28 マナー講座                                 | Twitter 4 回<br>Instagram 4 回  |
| 7 月  |                                                          | 第 5 回 7/12                                                                     | 第 12 回 7/4<br>第 13 回 7/11<br>第 14 回 7/18<br>第 15 回 7/25                     | 第 8 回 7/12<br>第 9 回 7/19                                                   |                                               | 7/10 パソコン講座<br>7/11 パソコン講座<br>7/19 パソコン講座<br>7/21 パソコン講座 | Twitter 1 回<br>Instagram 1 回  |
| 8 月  |                                                          | 第 6 回 8/4～8/9<br>(メール)<br>第 7 回 8/10～8/17<br>(メール)                             | 第 16 回 8/1<br>第 17 回 8/8                                                    | 第 10 回 8/9<br>第 11 回 8/18                                                  |                                               |                                                          | Instagram 1 回                 |
| 9 月  |                                                          |                                                                                | 第 18 回 9/19                                                                 | 第 12 回 9/6<br>第 13 回 9/29                                                  |                                               |                                                          | Twitter 4 回<br>Instagram 5 回  |
| 10 月 |                                                          | 第 8 回 10/11<br>第 9 回<br>10/17～10/23<br>(メール)<br>第 10 回<br>10/24～10/30<br>(メール) | 第 19 回 10/3<br>第 20 回 10/10<br>第 21 回 10/17<br>第 22 回 10/24<br>第 23 回 10/31 | 第 14 回 10/11<br>第 15 回 10/18<br>第 16 回 10/25                               |                                               | 10/14<br>前期振り返り<br>後期スタートアップ<br>兼 マナー講座                  | Twitter 10 回                  |
| 11 月 |                                                          | 第 11 回 11/1<br>第 12 回<br>11/7～11/10<br>(メール)                                   | 第 24 回 11/7<br>第 25 回 11/14<br>第 26 回 11/28                                 | 第 17 回 11/1<br>第 18 回 11/8<br>第 19 回 11/15<br>第 20 回 11/22<br>第 21 回 11/29 | 11/13～11/15<br>(ラボ・レター、<br>FULL 原稿作成<br>説明会)  |                                                          | Twitter 6 回                   |
| 12 月 | 第 4 回<br>12/11～<br>12/18<br>(メール)                        | 第 13 回 12/6                                                                    | 第 27 回 12/5<br>第 28 回 12/12<br>第 29 回 12/19                                 | 第 22 回 12/6<br>第 23 回 12/13<br>第 24 回 12/20<br>第 25 回 12/27                |                                               |                                                          | Twitter 3 回                   |
| 1 月  | 第 5 回<br>1/25～<br>1/31<br>(メール)                          | 第 14 回 1/10                                                                    | 第 30 回 1/9<br>第 31 回 1/16<br>第 32 回 1/23<br>第 33 回 1/30                     | 第 26 回 1/10<br>第 27 回 1/17<br>第 28 回 1/24                                  |                                               | 1/21 地域活動発表会                                             |                               |
| 2 月  | 第 6 回 2/14<br>(オンライン)<br>第 7 回<br>2/15～2/21<br>(メール)     | 第 15 回 2/14                                                                    | 第 34 回 2/6<br>第 35 回 2/13<br>第 36 回 2/20                                    |                                                                            |                                               |                                                          |                               |
| 3 月  | 第 8 回 3/27<br>(オンライン)                                    |                                                                                |                                                                             |                                                                            |                                               |                                                          |                               |

福岡県防犯協会連合会・  
福岡県警察生活安全部長連盟表彰  
「学生防犯ボランティア団体表彰」



2023 年 10 月 1 日受賞  
防犯・防災プロジェクト (MATE's)

福岡県小倉南警察署 感謝状



2024 年 1 月 25 日受賞  
防犯・防災プロジェクト (MATE's)  
則直 大智

# 地域の「チカラ」が必要です

## お申し込みの流れ

421Lab.を通じて様々な形で地域社会に出た学生が、地域とつながり成長しています。また、この良い影響が学内にも広がり、地域活動に参加したいという声も多くなってきております。

この取り組みを広げていくためには、学生を受け入れてご指導くださる地域のフィールドが必要です。下記の流れに沿って地域活動の募集をお受けしていますので、ご不明な点は下記のURLをご参照いただくか、お電話またはメールにてお問い合わせください。

<https://www.kitakyu-u.ac.jp/421/application02.html>

### 1.お申し込みの前に

地域活動の依頼をお受けするに当たり、学生が安全に活動できるように、いくつかの地域団体・活動の選定基準を設けています。新規でお申し込みいただく団体の皆さまは、一度、421Lab.へお越しいただき募集内容などをご相談ください。

### 2.活動概要の提出

相談後、421Lab.の活動趣旨をご理解いただけましたら、活動報告書やパンフレットなどの団体・活動の実績が分かる書類、地域活動のチラシを合わせてお持ちください。提出いただいた資料を基に、活動のタイプを検討させていただき、チラシ・HPなどで周知します。

### 3.学生募集

掲示板、ウェブサイトなどにて周知します。また、相談に来た学生には、学生の関心やスケジュールに応じて紹介します。プロジェクト型の活動については説明会にて活動概要のご紹介をお願いすることがありますのでご協力ください。

### 4.マッチング

【プロジェクト型、マッチング型】（長期型）

学生からの申し込みがありましたら日程調整等のご連絡をさせていただきます。地域活動の内容確認や調整させていただきます。

【インフォメーション型】（短期型）

421Lab.もしくは地域活動を希望する学生より直接ご担当者へご連絡いたします。

### 5.地域活動

プロジェクト型、マッチング型では活動に取り組む前に事前学習を行います。活動の理解を深めるために取り組み背景や活動趣旨、留意点などのレクチャー、専門的技術や知識に関する講座などをお願いします。また、活動を振り返る発表会や反省会の実施などをお願いいたします。